

1. 本サポート事業の意義

1-1 取り組みたい課題

1-1-1 重度重複障害者の適切なコミュニケーションの普及・啓蒙

重度重複障害がある場合、支援者がどうコミュニケーションしていいか分からない。そのため、支援者の主観で意思を読み取り様々な活動が行われるが、利用者の意思が反映されず支援者の一人芝居になっていることが多い。支援者主体傾向で教育が進み、義務教育を終えた後の長い生活においては更に受動的に過ごす時間が多くみられる。

例・飲み物の選択で言語理解がない利用者に言葉で問いかけをしている。

- ・不随意的な動きに意味づけを与えてコミュニケーションしている。
- ・話しかけのインターバルが短かすぎて、利用者の発信が重なる。

1-1-2 重度障害者への ICT を用いた生活支援技術の普及・啓蒙

重度肢体不自由のある人は運動能力の制限から能動性が発揮できずにいることがある。テクノロジーの進歩に反し、様々な情報入手に困難を抱えるケースもある。テレビや照明のオンオフ、電話、メッセージ、コールボタンの活用ができず一人で長い時間を過ごす人もまだまだ多い。環境を自分でコントロールできる時間を増やすことで生活の質を向上させる必要がある。

例・寝たきりで一日同じテレビのチャンネルを見ている。

- ・夜中に目覚めても何もできずベッドの上で時間を過ごすしかない。

1-2 原因と解決策

1-2-1 原因

重度重複障害がある場合、正しい認知レベルや運動機能の評価がないままコミュニケーションが行われてしまう可能性が高い。しかし、客観的にその評価を行うことは難易度が高く複雑なため、支援者の中にはどうコミュニケーションしていいか分からない場合も少なくない。そのため、支援者の主観で意思を読み取り様々な活動が行われることが多く、利用者の意思が反映されないことが多い。

また、重度肢体不自由がある場合、運動能力の制限から能動性が発揮できずにいる場合も多い。テクノロジーが急速に進化し、かつ、安価になり誰でも容易に入手できるようになってきても、様々な情報入手に困難を抱えるケースが多く、環境を自分でコントロールす

ることすらできず、一人で長い時間を過ごす人も多い。

1-2-2 解決策

個々に応じた適切なコミュニケーションや、ICT の活用について、知識を持った人を増やす必要がある。そのために研究期間と連携しながら、コミュニケーションおよび生活支援マニュアルを作成して支援者のためのトレーニングを行い、相談業務を実施することが必須である。

1-3 事業内容

重度障害児を持つ家族のコミュニケーションに関するサポート（2020-2021 年度東大委託
*当初1年の予定だったが、COVID-19 影響のため1年延長）

- (1) 時期：通年
- (2) 場所：事業所及び利用者宅（香川県高松市）
- (3) 対象：相談業務に関わる職員（3名）、利用者（3家族）
- (4) 内容：a. コミュニケーションに関する家族の相談業務
b. 家族及び職員への研修の実施
c. 広報活動

1-4 事業目標

(1)東大主導でコミュニケーションおよび能動的な生活に関する相談・実地支援を行いコミュニケーション支援の実践事例を作る。

【事例：36例、相談：計12回/年、1回/月】

(2)次年以降の相談・実地支援業務に向け、在宅療養ネットワーク職員の利用者担当者が研修生として相談に参加しトレーニングを受ける。

【研修者数：36例、トレーニング：計12回/年、1回/月】

(3)研修者および当事者とその家族のコミュニケーション支援に関する意識調査を行い、相談業務のブラッシュアップを行う。

(4)実践事例やコミュニケーション支援の研修テキストになる情報を整理した支援のための小冊子を作成する。

【500部】

(5)小冊子無料配布を通して、相談・サポート実績の蓄積を紹介する。

(6)香川県での重度重複障害児者に対するコミュニケーション支援やQOL向上へ向けた支援の質の向上を行う。

(7)サポートサービスの満足度調査を実施し、事業を評価する。

2. 事業内容の詳細

1-3 事業内容で挙げたものを、具体的に以下4項目に分けて計画した。今回は単年助成の

ため、(3)は省いて報告を行うこととする。

(1) コミュニケーションおよび生活支援に関する相談・実地指導（2020年度東大に委託）

① 時期：通年（計12回/年、1回/月）

② 場所：事業所または利用者宅

③ 対象：利用者とその家族（3名/月）

④ 内容：カメラで僅かな動きの変化を捉える OAK と、刺激に対する反応や環境情報を記録し取り溜める TEAK システムを用いて、コミュニケーションのための残存機能と認知レベルの客観的評価を行いコミュニケーションおよび生活支援に繋げる。本施設の相談室と専門家のいる委託先に TV 電話システムおよび評価ツール・生活支援ツールを導入し、オンライン相談を実施する。定期的に専門家に来所願い対面および訪問相談を実施する。

a. TV 電話システムによるオンライン相談（1回/月）

b. 事業所および利用者宅訪問相談（1回/月）

c. 機器の貸出

d. 家族のコミュニケーションにおける意識調査

(2) 職員の相談業務研修（2020年度東大に委託）

委託先よりコミュニケーションおよび生活支援に関する研修を受けると同時に、上述した相談・実地指導の中で実践的に研修を受ける。

① 時期：通年（計12回/年、1回/月）

② 場所：事業所または利用者宅

③ 対象：職員（3名/月）

④ 内容：次年以降に職員が相談業務を実施するために、1年目は利用者担当者が研修生として相談に参加しトレーニングを受ける。

a. TV 電話システムによるオンライン相談（1回/月）

b. 事業所および訪問での相談（1回/月）

c. 相談後のケース検討と学習会

d. 備品機器の使用技術習得

e. 研修後の職員の相談業務に関する意識調査

(3) 香川県におけるコミュニケーション支援研修会の実施

① 時期：2年目以降、通年（計4回、教育・福祉関係者2回、家族2回）

② 場所：事業所

③ 対象：教育関係者、福祉事業所職員、家族等（教育・福祉関係者30名/回、家族10名/回）

④ 内容：

a. コミュニケーションのための残存機能と認知レベルの客観的評価に関する知識習得

b. 客観的評価と適切な AAC（拡大・代替コミュニケーション）技法に関する実践演習

- c. 残存運動機能の評価とアルテクを活用した能動的活動支援のための技術演習～特殊な専用品ではなく、安価で誰もが容易に入手できるツール（スマホ、スマートスピーカー等）を活用することで専門的な知識がない人でも使いやすいサポート方法～
- d. 障害保健福祉の動向、制度の活用
- e. 終了者の意識調査

(4) 活動の広報（冊子印刷物の県内無料配布）

- ① 時期：年度末に1回
- ② 場所：事業所、香川県立高松養護学校など
- ③ 対象：教育関係者、福祉事業所職員、家族等
- ④ 内容：ICTを活用したコミュニケーションや生活支援に関する冊子印刷物を香川県内へ無料配布（500部）。

3. 事業計画の変更

COVID-19の影響により、免疫力の低い重度重複障害児者に面会することが困難になり、その保護者にとっても心理的負担が強く、県外からの来所自体が難しくなった。現在もなお、東大メンバーが重度重複障害児者や保護者への面会、および、事業所職員に面会することが困難な状況が続いている。そのため、当初の予定を変更せざるを得なくなり、重度重複障害児者のコミュニケーションの相談および実地指導ではなく、事業所職員および保護者へのオンラインを利用した研修を中心に計画を改めた。相談・実地指導においては、TV電話システムを用いて専門家のいる委託先（東大）と繋ぎ、東大でオンライン相談を受ける。オンライン相談では重度重複障害児の様子が十分に伝わりにくく、やり取りにも時間を要するため、複数回に渡りオンライン相談が必要な状況となっている。

4. 活動報告

4-1 コミュニケーション相談室の設営

- (1) 日時：2020年5月23日（土）9:00-12:00
- (2) 場所：事業所2F相談室
- (3) 参加者：

① 現地メンバー：英早苗（在宅療養ネットワーク）、谷口公彦（香川西部養護学校）、近藤創（高松市教育センター）、佐野将大（高松養護学校）、諏訪亜季子（香川県立保険医療大学）

② 東京メンバー：中邑賢龍、武長龍樹、赤松裕美（東大先端研）、巖淵守（早稲田大学）

- (4) 内容：

コミュニケーション相談室で使用する機器を設置し、ネットワークカメラ、タブレット端末、Apple TV等のネットワーク接続やアプリの設定を行なった。COVID-19の影響で東大先端研からスタッフが現地入りできないため、高松で募った支援者の協力の元で、東大

先端研からは遠隔から指示を出しながら設営を行った。

① コミュニケーション相談室

コミュニケーション相談室（図 1）は、養育者から聞き取りを行うだけでなく、対象児の感覚・知覚・認知について見立てをするために用いられる。そのため、ノイズとなる音や光をできる限り減らした環境となることを目指し、窓には遮光スクリーン、ドアは防音とした。対象児へ影響を最小限にして観察をするために、ロールスクリーンによって対象児から支援者が見えないようにしながら、ネットワークカメラとタブレット端末の映像をディスプレイに映して観察できるようにした。

自動観察対象となる児童への多感覚の情報の提示が可能になる。iOAK を活用することで、照明器具、スピーカーによる聴覚提示などを行うことができる

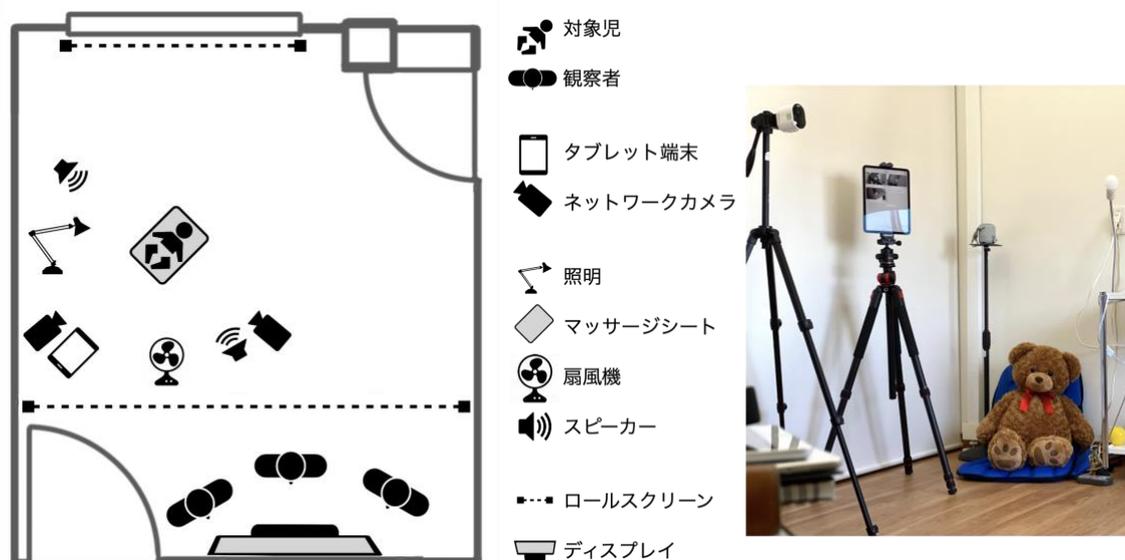


図 1 コミュニケーション相談室のレイアウト図（左）と活用イメージ（右）

② ベースラインのある観察

対象児の見立てに可能性が生じた場合には実際に場面をつくって、観察してみることが必要となる。その際に、できるだけ客観的な観察をする場合には、ABA デザインと呼ばれる観察法を用いるのが良い（図.2）。図 2 では、鈴が好きで手を伸ばすというエピソードがあった場合に、一緒にいる養育者のことばかけに反応していたり、徐々に興奮していたりする可能性を排除するために、鈴を対象児の目の前につるし、その前後の様子（ベースライン）と比較して観察する手法を示している。コミュニケーション相談室に配備された機材を用いることで、実際に ABA デザインによる観察を行うことができる。



図2 ベースラインをもうけた観察(武長・巖淵・中邑, 2016 より再録)

③ モーションヒストリー及び自動観察

ABA デザインの B フェーズの介入場面では、iOAK の自動観察機能によって、様々な刺激情報を自由に選んで対象児に提示することができる。設定インターフェースから、あらかじめ介入の刺激の種類や回数、提示時間などを設定できる。視覚刺激として、デスクライトの明暗の変化を提示できる。聴覚刺激としては、動物の鳴き声や楽曲あるいは録音した音声ファイルをスピーカーから提示できる。触覚刺激としてはマッサージシートによる振動や扇風機による風の提示が可能になる。さらに刺激を提示しておく時間や複数回提示する場合の時間間隔を自由に設定できる。また同じ感覚の刺激であっても左右から提示させることで、その刺激源の方向に気づいているのかを検査することもできる。iOAK による観察のマニュアルは別添した(資料1)。

• ABAの実験条件

- 刺激
 - 光
 - 音
 - 振動
 - 風
 - Bluetooth電池

• 繰り返し

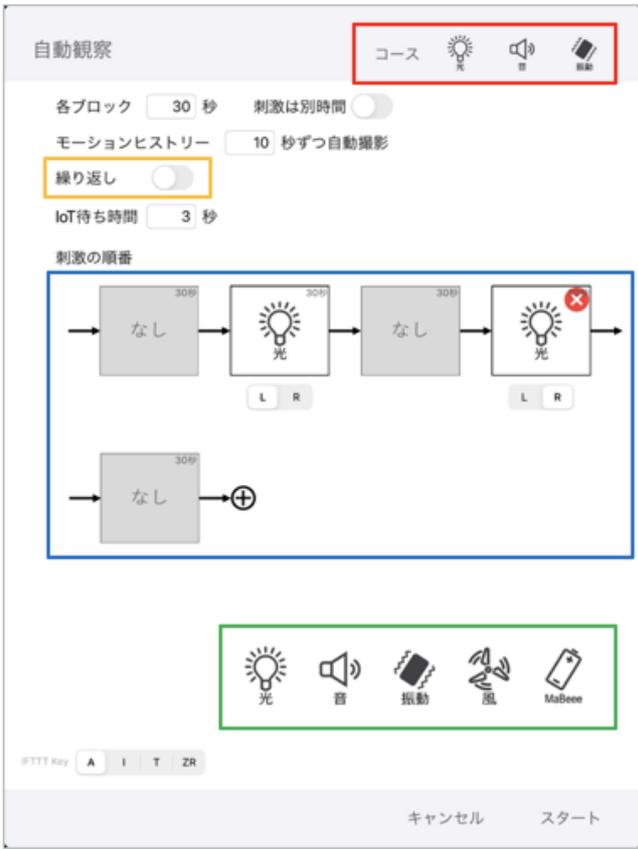


図3 iOAK 自動観察の設定画面

④ 相談室機能のネットワーク化
ネットワークカメラ及びビデオ会議システムを通じて東大先端研とつなぎ、遠隔で相談業務の助言を行う。iOAK で取得されたデータについてモーションヒストリーの分析を行う



図 4 遠隔も含めた体制図及び iOAK によるモーションヒストリーの図

4-2 研修・セミナーの実施

事業所職員や保護者を対象に下記の通り、研修やセミナーを実施した。研修ごとの詳細については、4-2-1 以降に記載する。

<2020 年度>

- (1)実施期間：2020 年 6 月～2021 年 2 月
- (2)実施回数：7 回
- (3)総時間数：15 時間
- (4)参加者数（累計）：289 名

<2021 年度>

- (1)実施期間：2021 年 11 月～2022 年 2 月
- (2)実施回数：4 回
- (3)総時間数：8 時間
- (4)参加者数（累計）：37 名（11/21 9 名， 2/6 14 名， 2/20 14 名）

4-2-1 職員および保護者向け基礎研修（セミナー）

- (1)日時：2020 年 6 月 21 日（日）9:00-12:00
- (2)場所：オンラインセミナー

(3)対象：事業所職員および保護者 15名

(4)講師：中邑賢龍（東大先端研 教授）、赤松裕美（東大先端研 学術支援専門職員）

(5)オンライン配信技術担当：武長龍樹（東大先端研 特任研究員）

(6)内容：コミュニケーションの基礎セミナーをオンラインで行い、重度重複障害児者とのコミュニケーションの重要性や方法を実感として理解できる研修を行った。

※研修スライドは別添資料 1-1（添付する）

(7)参加者からの感想（抜粋）※全ての感想は別添資料 1-2：

・利用者様とのコミュニケーションに悩んでいたのがヒントになり、また挑戦意欲の湧く素晴らしい内容でした。これからの利用者様へのコミュニケーションにいかせていけるように頑張っていきます。『〇〇障害』に着目するのではなく、その方が何に困っているか、困っていることに着目し、解決の糸口を見つけていく。身の回りにあるみんなが使っているものを活用してコミュニケーションが取れる時代だ、ということにワクワクしました。

・言葉や行動でうまく気持ちを伝えられない重度、重複障害児・者にとって、身の回りにあるテクノロジー(アルテック)の活用によって、選択肢が広がり、意思を伝えられる手段が増えるということを知り、とても勉強になりました。

正直、言葉を発することが出来ない方とのコミュニケーションは、自分もどうしてやりとりしたらいいのかよく分からず、積極的に出来ていないのが現状です。

飲み物の例がとても分かりやすかったです。相手の意思をくみ取ることが出来ず、食い違いが発生するなどは、日常でも起こりうることだと思います。少しでも意思疎通が出来るよう、考えていきたいと思えます。

そして、飲み物の例にもありましたが、勝手に決めつけず、選択肢を増やし、日々の変化をつけていくのも大事なことだと分かりました。

#1 コミュニケーション基礎セミナー（職員必須）

9:00-9:05 0. 英理事長からの挨拶

9:05-9:15 1. CO+高松プロジェクトの目的（講師：中邑・赤松）

9:15-10:15 2. コミュニケーションの基礎

- ・なぜコミュニケーションが大事なのか
- ・あなたはどの程度、利用者さんを理解できているのだろう
- ・コミュニケーションを考える時のポイント

10:15-10:30 休憩

10:30-11:30 3. テクノロジーの基礎

- ・身近にある携帯電話やタブレットを自分の生活や福祉に活用してみよう
- ・CO+高松の相談室にある、スマートスピーカーやiOAKで何ができるのか

知ろう

- ・便利なもの、面白いものを実感して、利用者さんの生活をより楽しくイ

メージしよう

11:30-12:00 4. 質疑応答

*受講できない人は ataclab AAC On demand のビデオを視聴してもらおう

4-2-2 職員および保護者向け基礎演習研修

(1)日時：2020年6月27日（土）13:00-16:00

(2)場所：事業所

(3)対象：事業所職員および保護者 18名

(4)講師：中邑賢龍（東大先端研 教授）、巖淵守（早稲田大学 教授）、赤松裕美（東大先端研 学術支援専門職員）

(5)内容：コミュニケーションの基礎演習セミナーを事業所で行い、COVID-19により自宅

を希望する参加者へはオンライン配信も同時に行った。#1のコミュニケーション基礎セミナーで学んだ内容を使って、実際にグループに分かれてワークショップや演習をしながらわかりやすく習得できる内容となった。

(6)参加者からの感想（抜粋）※全ての感想は別添資料2：

・相手の方が何を欲しているのかを尋ねる時の聞き方について、誘導的になっていないかと考える事がありましたので、言語理解ができる方なら YES/NO で聞くのではなく、「あ、か、さ、た、な～」で聞けばよいのだと知ることができた点が、すぐに実践できそうだと思います。（文字板がなくてもよい）新しい事を取り入れながら、楽しく取り組みたいと思います。本日はありがとうございました。

・支援する側の思い込みで、解釈をしている事が多いと感じます。演習では、相手の希望を引き出す難しさを体感しました。変化を楽しみ、変化に気づけるようにいろいろなアイデアを持って、関わっていきたいと思います。

#2 コミュニケーション基礎演習セミナー（希望者対象）

1. コミュニケーションの基礎

- ・能力の見立て
- ・コミュニケーション手段の選択
- ・コミュニケーションを考える時のポイント

2. テクノロジーの基礎

- ・iOAKの操作と活用
- ・スマートスピーカーの操作と活用
- ・便利なもの、面白いものを実感して、利用者さんの生活をより楽しくイメージしよう

4-2-3 保護者および支援者向けセミナー

- (1)日時：2020年8月8日（土）13:00-16:00
(2)場所：オンラインセミナー
(3)対象：障害のある子どもと関わる保護者・支援者、障害当事者 237名
うち、香川県内からの参加者 74名
(4)講師：中邑賢龍（東大先端研 教授）、赤松裕美（東大先端研 学術支援専門職員）
(5)オンライン配信技術担当：武長龍樹（東大先端研 特任研究員）
(6)内容：コミュニケーションの基礎セミナーを全国規模でオンライン開催し、重度重複障害児者とのコミュニケーションの重要性や方法を実感として理解できる研修を行った。
※研修スライドは別添資料 3-1（添付する）

(7)参加者からの感想（抜粋）※全ての感想は別添資料 3-2：

・高2の肢体不自由児の母です。特別支援学校に通っています。卒業に向けてまさに意思疎

通の方法を学校の先生方と一緒に探しているところで、お話を聴いて頭の中が整理できましたし、テクノロジーを使えば今後もたくさんの可能性があることがわかり希望が持てました。兵庫なので普通なら絶対に参加できない講習会ですが、このような機会をいただき感謝しています。今後もこのような企画があれば参加させていただきたいです。本日はありがとうございました。

・子どもたちの自己決定・自己選択の方法は限りなくあり、一人一人に合った様々なコミュニケーションの方法があるということが分かりました。安定の中でコミュニケーションは生じないとおっしゃっていましたが、飲み物の例のように子どもに選択肢を与え、コミュニケーションである選択できる喜びや楽しさを感じられる工夫をしていきたいと思います。障害の有無関係なしに何をすることも権利を持っており何かをやりたいという思いや欲求は一緒であるため、こちらの押し付けにならないようにコミュニケーションをしていきたいと思います。

4-2-4 職員向け機器操作研修

- (1)日時：2020年11月20日（金）17:00-20:00
(2)場所：事業所 2F 相談室
(3)参加者：事業所職員 10名
(4)講師：巖淵守（早稲田大学 教授）
(5)内容：コミュニケーション相談の際に使用する機器（iOAK、テレビ会議システム）の設定および、操作研修を事業所にて行った。その際、COVID-19により自宅からの参加を希望する方へはオンライン配信も同時に行った。

4-2-5 事業所職員への実践的研修 case1

- (1)日時：2021年1月20日（水）14:00-15:00

- (2)場所：利用者宅（本人、保護者、事業所職員）、東大とオンライン接続
- (3)対象：保護者 事業所職員（2名）
- (4)担当：中邑賢龍（東大先端研 教授）
- (5)内容：重度心身障害児（利用者）への支援アプローチについて、観察のポイントや保護者へのヒアリングのポイントについて共有し、相談体制構築のための実践研修をオンラインにて行った。

4-2-6 事業所職員への実践的研修 case2

- (1)日時：2021年2月8日（月）11:00-12:00
- (2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続
- (3)対象：利用者、保護者、事業所職員 事業所職員（2名）
- (4)担当：中邑賢龍（東大先端研 教授）
- (5)内容：重度心身障害児（利用者）の普段の様子を動画で確認した後、利用者の保護者からの相談に対して今後の支援方針を策定するため、次回までの関わり方や着眼点について共有をし、オンラインにて研修を行った。

4-2-7 事業所職員への実践的研修 case3

- (1)日時：2021年2月9日（火）11:15-12:15
- (2)場所：利用者宅（本人、保護者、事業所職員）、東大とオンライン接続
- (3)対象：利用者、保護者 事業所職員（2名）
- (4)担当：中邑賢龍（東大先端研 教授）
- (5)内容：重度心身障害児（利用者）への支援アプローチについて、利用者の残存機能と認知レベルの客観的評価や観察の記録について方法を共有し、オンラインにて実践研修を行った。

4-2-8 職員および保護者向けコミュニケーション研修

- (1)日時：2021年11月21日（日） 10:00-12:00
- (2)場所：事業所
- (3)対象：利用者、保護者、事業所職員
- (4)担当：中邑賢龍（東大先端研 教授）
- (5)内容：「子どもの見立て 黙って比べてみると分かる」をテーマに、重度重複障害児（利用者）への支援アプローチについて、相談に来られた親子の観察を行い、観察のポイントを共有した後、ミニレクチャーを行った。

4-2-9 職員および保護者向けコミュニケーション研修

- (1)日時：2022年2月6日（日） 10:00-11:00
- (2)場所：オンラインセミナー

(3)対象：保護者、事業所職員、利用者が利用されている他の事業所職員

(4)担当：中邑賢龍（東大先端研 教授）

(5)内容：「子どもへの働きかけと反応の理解 会話を通して理解する」をテーマとし、事前研修として障害のある人とのコミュニケーションに関する基礎知識を扱ったオンデマンドコンテンツを活用した。オンデマンドコンテンツを視聴した上で、疑問点や相談事項を整理し、それを踏まえた上で研修セミナーおよび相談会を行った。

4-2-10 職員および保護者向けコミュニケーション研修

(1)日時：2022年2月20日（日） 10:00-12:00

(2)場所：オンラインセミナー

(3)対象：事業所職員、利用者が利用されている他の事業所職員

(4)担当：中邑賢龍（東大先端研 教授）

(5)内容：2本立てでセミナーを実施した。前半は「子どもの意欲を引き出す 子どもとの遊び方」、後半は「誰もが分かるコミュニケーションへ 写真やシンボルを使うには」をテーマとし、事前研修として障害のある人とのコミュニケーションに関する基礎知識を扱ったオンデマンドコンテンツを活用した。オンデマンドコンテンツを視聴した上で、疑問点や相談事項を整理し、それを踏まえた上で研修セミナーおよび相談会を行った。

4-3 オンライン相談

保護者や事業所職員を対象に下記の通り、相談を実施した。ただし、COVID-19の影響が大きく、専門家のいる委託先（東大）から直接重度重複障害児者の元へ面会に出向けない状況が続いている。そのため、TV 電話システムを用いて東大と繋ぎ、オンライン相談を検討し、可能な相談者から試行している段階である。TV 電話システムのモニター越しでは重度重複障害児者の様子が十分に伝わりにくく、また、職員の実地研修ができていない状況でのスタートとなり、やり取りにも時間を要している。そのため、一人の相談者に対して予定以上の回数が必要な状況となっている。今回、オンライン相談の試行をするうちに、以下のフローチャート（図1）に示すような相談の流れが見えてきた。

また、職員・保護者・支援者研修でもオンラインを活用したセミナーを試みており、そのセミナー内でオンライン集団相談を取り入れ、新たな相談の試みとなった。

相談ごとの詳細については、4-3-1以降に記載する。

<2020年度>

(1)実施期間：2020年6月～2021年2月

(2)実施回数：延べ相談回数7回（集団相談も含む）

(3)総時間数：10.5時間（集団相談も含む）

(4)相談者数：のべ利用児者・保護者10家族（個別相談3家族／集団相談7家族）

重度重複障害児者のうち、オンライン相談を承諾くださり進められる方および保護者 3 名に対して行なった。また、集団相談で限定公開可能な内容に限って 3 組の家族に対して相談を行った。

(5)場所：事業所（通所）／利用者宅（訪問）

(6)使用備品：タブレット端末（TV 電話システム、動画録画、iOAK、AI）、三脚

(7)オンライン相談で使用するシステム：

- ・TV 電話システム内で観察し、録画記録する。
- ・タブレット端末を貸出し、子どもの覚醒の高い時間に課題を録画してもらう。
- ・タブレット端末で録画したものは、そのままクラウドを利用しスタッフ間で共有可能。

(8)役割分担：要修正

- ・事業所職員：事前に聞き取りを行う。現地で利用児者と関わる、TV 電話システムを通して東大へ共有する。
- ・東大スタッフ：遠隔で送られた動画で様子を観察し、利用児の残存機能と認知レベルの客観的評価を行い、コミュニケーションおよび生活支援に繋げるための試し（相談では「宿題」とした）を提案する。データ取得の必要性やその分析方法を検討する。
- ・保護者：希望や必要に応じて、利用者宅での関わりと撮影をする。

<2021 年度>

(1)実施期間：2021 年 4 月～2022 年 3 月

(2)実施回数：延べ相談回数 15 回

(3)総時間数：15 時間

(4)相談者数：利用児者・保護者 3 家族

重度重複障害児者のうち、オンライン相談を承諾くださり進められる方および保護者 3 名に対して行なった。

(5)場所：事業所（通所）／利用者宅（訪問）

(6)使用備品：タブレット端末（TV 電話システム、動画録画、iOAK、AI）、三脚

(7)オンライン相談で使用するシステム：

- ・TV 電話システム内で観察し、録画記録する。
- ・タブレット端末を貸出し、子どもの覚醒の高い時間に課題を録画してもらう。
- ・タブレット端末で録画したものは、そのままクラウドを利用しスタッフ間で共有可能。

(8)役割分担：要修正

- ・事業所職員：事前に聞き取りを行う。現地で利用児者と関わり、TV 電話システムを通して東大へ共有する。
- ・東大スタッフ：遠隔で送られた動画で様子を観察し、利用児の残存機能と認知レベルの客観的評価を行い、コミュニケーションおよび生活支援に繋げるための試しを提案する。

データ取得の必要性やその分析方法を検討する。

- ・保護者：希望や必要に応じて、利用者宅での関わりと撮影をする。

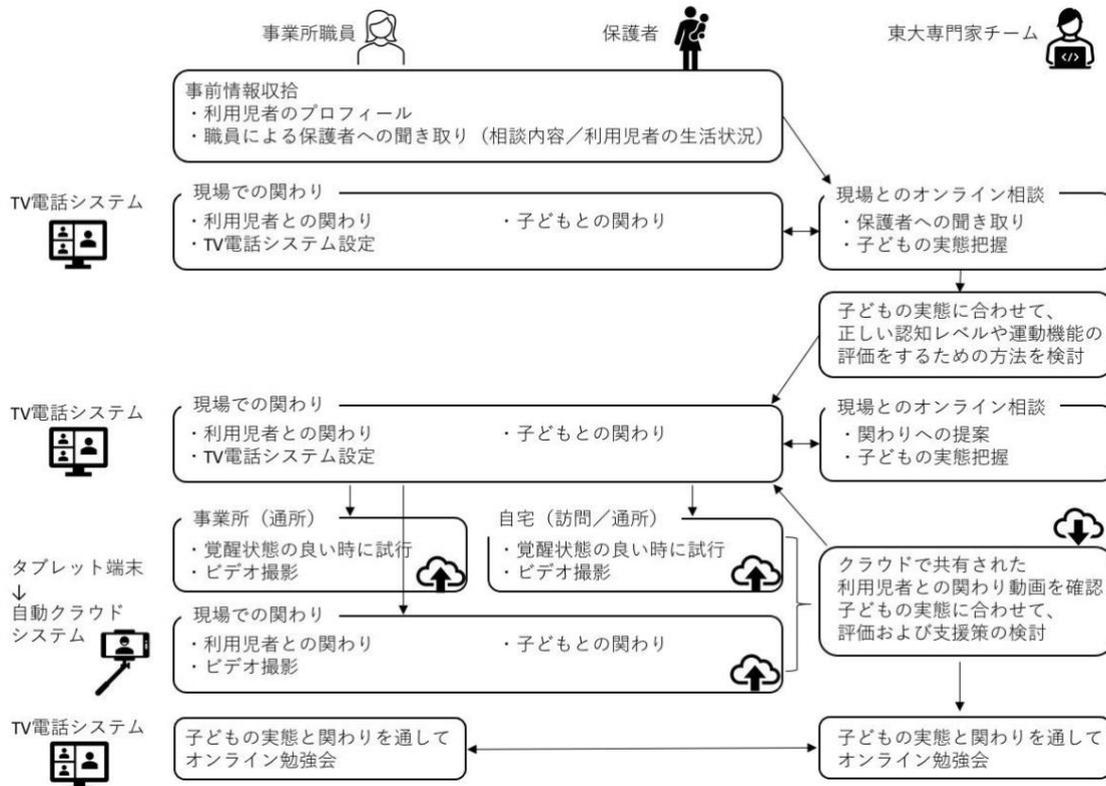


図1 オンライン相談のフローチャート

4-3-1 case1

年齢（初回相談時）：8カ月(修正9カ月)

性別：男児

疾患名：遅発性劇症型 GBS 敗血症、髄膜炎、痙攣、中枢性尿崩症、右耳難聴、副腎不全

症状：体温調節機能のコントロール不良、感覚過敏(特に触覚過敏)、四肢・体幹の筋緊張亢進からくる向き癖(右<左)

おもちゃ等への追視みられない(眼振あり)、大きい音や人の声に反応あり。

仰臥位では左右への頸部の動き見られるも、筋緊張の亢進のため左側への向きぐせあり、四肢の動き活発であり布団をはぐような仕草や布団をけてはぐ様子あり。

(1)日時：2021年1月20日(水) 14:00-15:00

(2)場所：利用者宅(本人、保護者、事業所職員)、東大とオンライン接続

(3)対象：利用者、保護者 事業所職員（2名）志磨村さんの方へ以降

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：以下の通り提案をした。

- ・上に掛ける毛布の重さの調節をして、上肢の動きに変化がみられるか？
→電気毛布を掛けた場合と、布地の布団をかけた際の確認。
- ・お風呂に入る前にオルゴールや音などをかけて意識付けを行い、変化がみられるか？
- ・夜間の覚醒状態の有無の確認
- ・抱っこなどでゆらゆら体を揺らした際の変化の確認
- ・他者と家族への反応の違い→動画撮影
- ・頭を触られて嫌がるのはどんな場面が多いか？→場面の確認

(6)効果：利用児の様子を TV 電話システムを通して伝えることができた。その上で、次回の対応を検討する資料となった。

(1)日時：2021年2月9日（火）11:15-12:15

(2)場所：利用者宅（本人、保護者、事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：利用者、保護者 事業所職員（2名）志磨村さんの方へ以降

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：TV 電話システムを通して、母親に利用児へ対応をしてもらい動画に記録する。その様子を観察しながら、利用児の残存機能と認知レベルの客観的評価を行いコミュニケーションおよび生活支援に繋げるための試しを提案した。

・四角い布を利用児の上へのせ、以下を試す。

- ①そのまましばらく様子を見る
- ②遠くから声をかける
- ③近くから声をかける
- ④風をかける
- ⑤頭を撫でる

②～⑤の実践中に吸啜の動きが見えるも遠隔でのビデオ撮影のため iOAK では確認できず、覚醒がよい時間に母親に同様の動作を行い録画を依頼する。

(6)効果：母親や事業所職員が、子どもの何を確かめるためにその関わり方をするのか、そのためにどの手順で試す必要があるのかを質問する機会が生まれた。また、関わりを理解し、日々の生活において子育てや支援に取り入れ、記録をとって次の相談へと繋げている。

4-3-2 case2

年齢：2歳（相談を開始した2021年2月時点）

性別：男児

疾患：遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん、胃ろう造設

症状：ベッド上で寝ている時間が多い。寝返りや予定は獲得できていない。四肢を随意的に動かすことは困難。発語はなく、喃語はみられる。相談を開始した当初の頃から注視がみられるようになった。

- ・注入や吸引は母が全て行う。
- ・自宅では、リビングで寝た状態で過ごし、TVで音楽動画を聴いて過ごしている。
- ・母がご飯を作っている間は、座位保持装置に座っている。
- ・兄が帰宅すると兄との交流はある。
- ・事業所を利用している間は他者との交流の時間を増やすため、注入の回数を減らした。
- ・本人の好きな遊びのを見つけ方を知りたい。

<2020 年度>

- (1)日時：2021年2月8日（月）11:00-12:00
- (2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続
- (3)対象：利用児、保護者、事業所職員
- (4)担当：東大スタッフ
- (5)内容：利用者が入院のため事業所職員と動画を用いて相談を受ける。保護者より食事（PEG 注入）に関する相談あり。1日の食事摂取を医師からの指示通りに行うが、利用児の空腹感や満腹感が読み取れず、必要以上の注入をしている可能性があるのではと心配している。利用児の昼食時の注入前・注入中・注入後の動画を事業所で撮影し、共に確認しながら、担当職員に聞き取りを行った。また、比較して反応を探る方法を提案し、次回までの関わり方を共有した。その後、現状での食事状況を確認してもらう。

7:30 お薬（白湯 50ml）

8:00 朝食

10:00 おやつ

12:30 昼食

15:00 おやつ

17:00 夕食

19:00 夕食 2回目

20:00 お薬

21:00 夜食

<2021 年度>

相談記録

- (1)日時：2021年5月11日（火）10:30-11:30
- (2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続
- (3)対象：保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：前年度に引き続き、食事に関する相談が保護者から寄せられる。食事やおやつの際の様子を聞き取り、匂い刺激に対する反応を探る方法を提案し、次回までの関わり方を宿題として共有した。また、自宅での食事やおやつの際の様子を動画で撮影してもらうよう依頼した。

以降、宿題を実践している様子を動画で撮影したものを事前に共有してもらい、東大スタッフ間で動画を確認し、次の関わり方・観察のポイントについて検討を行い、相談時に動画を踏まえたフィードバックおよび、次回の宿題の提案を行うというサイクルで進めた。

(1)日時：2021年5月28日（金）11:00-12:00

(2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：撮影された動画を踏まえて保護者および事業所職員へフィードバックを行った。食事を与える際の手順やおやつの種類について、また、生活の中での様々な刺激に対する利用者の反応を観察するポイントをまとめた宿題を提案し、共有した。

(1)日時：2021年7月21日（水）11:00-12:00

(2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：宿題実践について保護者の負担感などをヒアリングした。その後、事前の検討結果を保護者および事業所職員へフィードバックし、食事の際に、より反応を比較しやすくするための刺激提示について共有し、次回の宿題を提案した。

(1)日時：2021年11月15日（月）11:00-12:00

(2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：撮影された動画を踏まえて保護者および事業所職員へフィードバックを行った。事業所での利用児の様子をヒアリングしたところ、外界へ意識を向けている様子が伺えた。そこで、食事以外の場面も含めて、刺激に対する児の反応や様子を観察する宿題を提案し、共有した。

4-3-3 case3

年齢：39歳

性別：男性

疾患名：アテトーゼ型脳性麻痺

症状：不随意運動が強い。強い緊張から起こった頸髄損傷のため、運動機能が失われている。

(1)日時：2020年6月26日（金）19:00-20:30

(2)場所：利用者宅（保護者）、

(3)対象：利用者、保護者

(4)担当：東大スタッフ、早稲田大スタッフ

(5)内容：COVID-19の影響のため、保護者のみと面会。既に利用者を撮影した Yes/No のサインを教師データ用として取得しており、それを学習させた AI を利用して自動認識スイッチの開発を進める。今回はそのプロトタイプを紹介し、別の様々な角度から撮影した追加の Yes/No の動画撮影を依頼した。教師データとするため、多くの動画（複数で長時間、服も違うなど）の撮影方法を説明し、認識精度向上を目指す。

(6)貸出機器：タブレット端末、三脚（撮影のため）

(1)日時：2020年11月20日（金）14:00-16:00

(2)場所：利用者宅（保護者）

(3)対象：利用者、保護者

(4)担当：東大スタッフ、早稲田大スタッフ

(5)内容：COVID-19の影響のため、保護者のみと面会。COVID-19 流行で制限のある病院内でどのように相談・自動認識スイッチ開発を進めるか議論した。

4-3-4 case4

年齢：8歳（相談を開始した2021年3月時点）

性別：男児

疾患：声門腔狭窄のため気管切開

症状：発語の獲得ができておらず、時々スピーチバルブ装着。胃ろうのため食事は注入。出生時 体重464g（妊娠中毒症のため25週で出産）入院も長く、安定してきたのは1～2年前から。現在は片肺だが、酸素なしで生活出来ている。ただ、嘔吐も多く生活に支障をきたす事がある。

<2021年度>

相談記録

(1)日時：2021年5月19日（水）11:00-12:00

(2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：保護者より、利用児とのコミュニケーションの難しさについて相談が寄せられた。利用児とのコミュニケーション方法について探るため、自宅での様子を観察する際のポイント、普段のルーティンの中での関わり方に関するヒントを宿題として提案し、共有した。また、宿題実践の様子を動画で撮影してもらうよう依頼した。

以降、宿題を実践している様子を動画で撮影したものを事前に共有してもらい、東大スタッフ間で動画を確認し、次の関わり方・観察のポイントについて検討を行い、相談時に動画を踏まえたフィードバックおよび、次回の宿題の提案を行うというサイクルを進めた。

(1)日時：2021年7月29日（木）11:00-12:00

(2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：撮影された動画を踏まえて保護者および事業所職員へフィードバックを行った。利用児の要求や興味をさらに深掘りするための観察や関わり方についての宿題を提案し、共有した。

(1)日時：2021年10月5日（火）10:00-11:00

(2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：撮影された動画を踏まえて保護者および事業所職員へフィードバックを行った。利用時の「要求」や「拒否」といった意志表示を観察する関わり方についての宿題を提案し、共有した。

(1)日時：2022年1月26日（水）14:40-15:40（高松養護の先生とのVOCA情報共有）

(2)場所：事業所（事業所職員）、在籍学校、東大とオンライン接続

(3)対象：利用児、保護者、事業所職員、利用児が在籍している特別支援学校教員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：学校での利用児の様子について担任から報告あり。学校で使用している支援機器の活用方法についての助言を行い、CO+高松・学校・家庭での取り組みを連携し、利用児の発達に繋げていく関わり方を共有・確認した。

(1)日時：2022年3月2日（水）11:00-12:00

(2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：前回の宿題（紐を使った遊び）に関して、撮影された動画を踏まえて保護者および事業所職員へフィードバックを行った。紐の種類や遊び方についてバリエーションを増やした関わり方の助言を行い、これを宿題として提案し、共有した。

4-3-5 case5

<2021 年度>

相談記録

(1)日時：2021年5月27日（木）10:30-11:30

(2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：本人、保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：保護者より、利用児とのコミュニケーションの難しさについて相談が寄せられた。利用児とのコミュニケーション方法について探るため、自宅での様子について母からヒアリングを行った後、利用児と事業所職員が遊ぶ様子を観察した。観察しながら、観察のポイントを保護者と事業所スタッフに説明し、利用児の行動・反応に対する見立てを行った。観察の結果を踏まえ、遊びを通じた関わり方についての宿題を東大スタッフ間で検討し、次回相談時に提案することを共有した。

(1)日時：2021年6月9日（水）11:00-12:00

(2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：本人、保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：前回の相談を踏まえ、利用児との遊びや日常的なやりとりの中で変化を起こした際の、利用児の反応を観察する宿題を提案し、共有した。また、宿題実践の様子を動画で撮影してもらうよう依頼した。以降、宿題を実践している様子を動画で撮影したものを事前に共有してもらい、東大スタッフ間で動画を確認し、次の関わり方・観察のポイントについて検討を行い、相談時に動画を踏まえたフィードバックおよび、次回の宿題の提案を行うというサイクルを進めた。

(1)日時：2021年9月3日（金）11:00-12:00

(2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：本人、保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：撮影された動画を踏まえて保護者および事業所職員へフィードバックを行った。録画映像や事業所職員へのヒアリングから、利用児がおもちゃよりも人への関心が高いことが伺えたため、人との遊びを通して、利用児が何に関心を持っているかを探る宿題を提案し、共有した。

- (1)日時：2021年9月15日（水）9:30-10:30
- (2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続
- (3)対象：事業所職員
- (4)担当：東大スタッフ
- (5)内容：本児が利用している複数の事業所職員にも参加してもらい、CO+高松で取り組んでいる内容について共有を行った。事業所間と東大で連携した取り組みを実施し、利用児の発達に繋げていく関わり方を共有・確認した。

- (1)日時：2021年10月25日（月）11:00-12:00
- (2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続
- (3)対象：本人、保護者、事業所職員
- (4)担当：東大スタッフ
- (5)内容：前回の宿題実践の様子を撮影した動画および事業所スタッフのヒアリングから、手袋遊びが利用児の興味を引いていることが伺われた。手袋遊びのどのポイントに利用児が興味を持っているかを深掘りするために、刺激提示の方法を複数パターン（手袋の色を変える、手袋の素材を変える、など）に分け、利用児と遊んでみることを宿題として提案し、共有した。

- (1)日時：2022年1月26日（水）10:00-11:00
- (2)場所：事業所（事業所職員）、東大とオンライン接続
- (3)対象：本人、保護者、事業所職員
- (4)担当：東大スタッフ
- (5)内容：撮影された動画を踏まえて保護者および事業所職員へフィードバックを行った。手袋遊びにおいて、利用児に伝わりやすい刺激をさらに探っていくために、刺激の提示方法や観察のポイントを助言し、宿題として提案・共有した。

4-3-6 集団相談

- (1)日時：2020年8月8日（土）13:00-16:00
- (2)場所：オンラインセミナー
- (3)対象：利用児者（3名）とその保護者（3家族）
- (4)担当：東大スタッフ
- (5)内容：コミュニケーションの基礎セミナーを全国規模でオンライン開催し、その中で承諾のあったご家族3組に、公開での相談会に参加いただいた。
- (6)効果：重度重複障害児者とのコミュニケーションが具体的に共有することができ、セミ

ナー参加者からも好評を得た。

(1)日時：2020年12月7日（月）12:00-13:00

(2)場所：事業所（利用児者、事業所職員）、東大とオンライン接続

(3)対象：利用児者（4名）、保護者（4家族）、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：利用児者4名について、各担当の事業所職員よりプロフィールの共有があり、利用児者の様子をTV電話システムで東大と繋いで伝える。様子を見ながら、対象者の実態把握のために試してもらうことを提供し、その場で事業所職員が利用児者へ試みた。その場で見れない様子は事前に動画撮影したものを共有し、今後の関わりについて協議をした。

4-4 事業所で行う実地相談

case.4の児については、事業所において実地相談を一度行った。内容については以下の通りである。

(1)日時：2021年11月21日（日）10:00-11:00

(2)場所：事業所

(3)対象：利用児、保護者、事業所職員

(4)担当：東大スタッフ

(5)内容：宿題を実践している様子が撮影された動画を踏まえて保護者および事業所職員へフィードバックを行った。母へのヒアリングから、利用児の「音を出して人を呼ぶ」ような行動をとることが分かった。人を呼ぶ経験の準備段階として、紐などを活用して呼ぶ相手と直接繋がり、自分の行動が体にフィードバックされる遊びを宿題として提案し、共有した。

4-5 フライヤー制作

香川県での重度重複障害児者のコミュニケーション支援やQOL向上へ向けた支援体制を作るためにも、本コミュニケーション相談室を紹介するフライヤーを制作した。500部配布予定である。

4-6 職員および家族のコミュニケーション支援に関する意識の変化

保護者や事業所職員の相談業務のブラッシュアップを図り、計11回の研修を継続的に実施した。保護者や事業所職員から、「研修を受けたことで、今取り組んでいる宿題の意図を改めて理解することができた」「取り組んでいる宿題が何に繋がるのか先の見通しがもてた。意味を理解して実践するのとそうでないのとでは全く異なってくる」といった感想が寄せられ、重度重複障害児者のコミュニケーション支援について共通理解を図ることに繋

がってきていると考える。共通理解を深めつつ、今後、職員の相談・支援業務のブラッシュアップに繋げていきたい。

4-7 小冊子制作・配布

重度重複障害児者の保護者や支援者に向け、コミュニケーション支援のポイントをケースごとに整理した小冊子を制作し、500部を無料配布予定である。重度重複障害児者との遊び方や関わり方に難しさを抱える保護者や支援者にとって、本冊子が重度重複障害児者とのコミュニケーションのヒントとなり、保護者や支援者のコミュニケーションの幅を広げていくことに繋がると期待される。小冊子のイメージを別添する。

4-9 香川県での重度重複障害児者に対するコミュニケーション支援

香川県での重度重複障害児者に対するコミュニケーション支援や QOL 向上へ向け、保護者・職員向けの研修を行う際には他の事業所職員にも窓口を広げ実施した。研修を重ねていくことで、本事業所だけでなく、利用児が関わる他の事業所職員ともコミュニケーション支援の共通理解を図ることができ、全体的な支援の質の向上に繋がっていると考える。

4-10 本サポート事業の満足度

オンライン相談を実施してきた利用児 2 名の保護者に、オンライン面談にて本サポートサービスに対するヒアリングを実施した。それぞれの保護者から得られた感想を以下に抜粋して記載する。

<保護者 A>

- ・学校から配布されたチラシ（4-5 で述べたフライヤー）から本事業を知った
- ・コミュニケーションや言語について相談できるところがなくピンチに陥っており、すぐる思いで本サポートサービスに相談した
- ・オンライン相談を通して、子どもに丁寧に寄り添ってくれたことが初めての経験であった
- ・毎回の宿題は、ステップが細かく分かりやすく、かつ、夫も参加しやすく実践しやすいものであった
- ・宿題を通して、次に向けた声かけややり方を考えられるようになった
- ・本サポートサービスが心の拠り所であり、子どもの成長を実感すると共に保護者の成長にも繋がっていると感じる

<保護者 B>

- ・オンライン相談を通して、子どもの得意なところが分かったり、子どもに対する見立てを客観的に理解することができた
- ・一方で、オンラインではなく実際に直接子どもを見てもらった方がなお良いのではと思ひ、もどかしさも感じた
- ・研修を受けたことで、宿題の意図を再認識することができ、次の関わりに活かすことに繋がった
- ・子どもが興味を持ったものを使って、どんな関わり方をしようか考えている
- ・子どもと二人きりでいる時に、宿題がやりとりのきっかけになり、子どもとのやりとりが楽しくなった。

以上より、本サポート事業に対する保護者の満足度は概ね高いことが伺えた。事業を通して、保護者が利用児の成長を感じるとともに、利用児とのコミュニケーションや関わり方を考え、実践し、楽しさを見出していた。結果として、重度重複障害児者とのコミュニケーションに変化をもたらし、ひいては重度重複障害児者の QOL 向上に繋がるきっかけの 1 つになるのではないか。これらのことより、本サポート事業が重度重複障害児者のコミュニケーション支援にもたらす意義は大きいと考える。

別添資料 1-2

2020 年 6 月 21 日（日）実施 職員および保護者向け基礎研修（セミナー）参加者感想

・人が生活をする→生きていくためには、単に「ADL に問題がない」だけでは不足しており、かわいいと思う服を着る・飲みたいものを飲む、というような意思の尊重（それを理解するようなコミュニケーション）が必要という講義の序盤から、早速に色々気付かされました。現在事業所で関わりのある利用者様で、自分では自分の意見を言葉で伝えることが難しく、また家族の方も「何を言ってるか分からない」と意見を受け取れず、結果心を殺し続けている方が「死にたい」と言っているというお話を思い出して、人が生きるのをやめたいと思うときはきっとそういう時なのだと、そしてそういった方を救うにはその方のコミュニケーションをサポートすることが必要と強く感じました。

現在その方に関わっているスタッフは、小型読み上げ機を貸すなどして何とかコミュニケーションが図れるよう支援を行っています。昔は人の手ではどうしても技術や時間が必要で実践が難しかった支援が、今日の日ごましいテクノロジーの進化で可能になってきていることも分かりました。目ごましすぎてどうしても「まだ早い」「難しい」「こわい」「限られた人だけのもの」と反射的に感じてしまう人が多いので（自分含め）、ぜひ「あるテク」の身近さを知り・広め、できないと思っていたラインをどんどん超えていける人を増

やしていけたら…と思いました。（他の方も言われていましたが、私的な感触として機器やソフトの扱いに食わず嫌いの強い苦手意識がある方が多いので、導入への道筋が大きな課題と感じています。）

・利用者様とのコミュニケーションに悩んでいたのがヒントになり、また挑戦意欲の湧く素晴らしい内容でした。これからの利用者様へのコミュニケーションにいかせていけるように頑張っていきます。

『〇〇障害』に着目するのではなく、その方が何に困っているか、困っていることに着目し、解決の糸口を見つけていく。身の回りにあるみんなが使っているものを活用してコミュニケーションが取れる時代だ、ということにワクワクしました。

・大変勉強になりました。こうして講義を受けて気づくところが沢山ありました。障がいのある方が ICT 機器を使いそれぞれの障がいで、不可能な部分を可能にして当たり前の生活を送れるようになるため、もっともっと広がっていけばいいなと思います。私も少しでもそのお手伝いが出来たらと思います。

・障害を持つ方も、介助する方も、固定観念を捨ててもっとオープンに考えるべきだと思いました。

私は、柚希（※子・先天性サイトメガロウイルス感染症）に対して、すごく世界を狭めていたと思います。飲み物ひとつとっても、『安全で、確実に本人が飲めるもの！』と勝手に思い込み、柚希の""知る""という世界を遮断していたと改めて感じました。

早速、今までトライした事のない味の飲み物を試したり、昔拒否して使わなかったおもちゃを持たせてみたり、しました。

意外と、反応が良く、恐る恐るでしたが試してみて良かったと思いました。

なかなか本人の意思をくみとることは難しいですが、本人の可能性を狭める事はしないように気をつけたいも思います。

・テクノロジーによって、自分たちが分からなかったことが分かるようになったら、本人の好きか嫌いかが分かるようになったら、出来なかったことが出来るようになったら、意思の疎通ができるようになったら、、、テクノロジーに期待したいと思いました。

・ひとつのものに執着するのではなく、外からの刺激が必要という理由がよく分かりました。本人（医療的ケアが必要な子）に手がかかるから、弟に我慢させることが多い現状があります。

・本日の講義とても興味深いものでした。

今回の講義を受けて、日々の業務のなかで、まずはいかに自分が対象となる方の行動・表現の観察が行えていないかを反省しました。

対象の方と関わる時間のなかでその仕草に対する表現性の理解を、他職種やご家族と共有していくことが大事だと感じました。

また、関連している各支援者が共有できるコミュニケーションツールの利用を行うことで更に対象の方を関わっている皆が知ることができ、その方の生き方を支えていくことができるのでは?と思いました。

・今回の研修、大変充実した内容で大変感銘をうけました。

先生が提示された課題

①飲み物からのアプローチ

②トイレの誘導

は、重度知的障害のある当事者だけでなく保護者にとっても、本人の自己決定・成長を知るきっかけであることを再認識しました。

実例・水分補給に毎日おちやがジュースを飲ませていたので、はじめて手製のミックスジュースを出したところ表面に「あわ」がたったのをみて、「ビール」とことばが出た。

本当は、ビールではないが、大変重要な気付きがあった。身体が固まった。先生がおっしゃった内容が思いだされたが本人の「ビール」という表現を否定しない、それしか出来なかった...

【続き】

またトイレの自立にしても、大便のフォローが出来るのは毎日立ち会えたとして、365日！1年最大でたった365回しかない。

少ないチャンスを生かすためにも、支援手段を本人と過ごす時間が長い家族が理解し、その情報を支援者・学校・地域と連携出来るよう、また、(ICTなどのツールを使って)よりよくアシスト出来ることは何か考えていくことが、大切かと思いました。

そして、辛いときもある障害児(者)支援、チームとなり「たのしんで」取り組んでいければ楽しさ倍増・苦しさ半減、効果も期待出来るかと思います。

・言葉や行動でうまく気持ちを伝えられない重度、重複障害児・者にとって、身の回りにあるテクノロジー(アルテク)の活用によって、選択肢が広がり、意思を伝えられる手段が増えるということを知り、とても勉強になりました。

正直、言葉を発することが出来ない方とのコミュニケーションは、自分もどうしてやりとりしたらいいのかよく分からず、積極的に出来ていないのが現状です。

飲み物の例がとても分かりやすかったです。相手の意思をくみ取ることが出来ず、食い違いが発生するなどは、日常でも起こりうることだと思います。少しでも意思疎通が出来るよう、考えていきたいと思っています。

そして、飲み物の例にもありましたが、勝手に決めつけず、選択肢を増やし、日々の変化

をつけていくのも大事なことだと分かりました。

・こちらで働かせて頂いて約4ヶ月、利用者さんの意思をもっと正しく理解したいと強く思い始めた時だったので、とても共感できました。

例えば話せない児童が髪を引っ張ることで何かを訴えているのですが、正しく理解してあげていなかったと気付いたところです。何度もその子と関わって少しずつわかってきたところもありますが、まだまだそれが正解ではないかもしれません。

もっと正解に近づいて、利用者さんたちにより良い対応ができるよう更に学んでいきたいと思っています。

・私は、これまでコミュニケーションについて、深く考えたことはありませんでした。でも 重度重複障害のある人とのコミュニケーションは難しく、又、コミュニケーションの取り方、その種類の多さを知りました。

障害によっては、テクノロジーを活用している人もいるのだと、知りました。

これから 仕事をしていくにあたって、まずは、相手のことを知り、病気や障害を理解し、相手をよく観察することから始め、コミュニケーションをとっていきたいと思いました。

別添資料 2

2020年6月27日（土）実施 職員および保護者向け基礎演習研修参加者感想

・アマゾンエコーで、通所施設の記録をしてほしいと思いました。その場を離れて、子どもから離れて、せめて片手がフリーにならないと記録ができません。部屋の端から、「〇〇ちゃん、水分 100ml 飲めました」と言った言葉を記入してくれると、子どもにかけられる時間が増します。

・本日は、大変貴重なお話ありがとうございました。日頃の自分自身の関りをかえりみて、反省しきりでした。言葉を増やす、ひとつのツールとして、アレクサ（ICT）が繋がったことに大変な気づきがありました。苦手意識だったり「ことば」を教える方が先！！みたいな固定観念・・・それらを覆す講座。このプロジェクトに関われる事に（教えて頂けることに）感謝です。今後とも、さまざまな形で関われるよう、日々勉強（楽しんで）自身もスキルアップしたいと思います。

・アレクサの存在は知っていましたが、介護や看護が必要な方に使用するという手段は考えていませんでした。便利なテクノロジーを、介護が必要な方に繋がられるのも看護の面白いところだと思いました。

・ありがとうございました。講習もあり、コミュニケーションの難しさを実感できました。ストレスなくお互いの意思を理解できると、より一層コミュニケーションや関りが増え、障害のある人も支援する人も、QOLが上がると感じました。

・コミュニケーションの奥深さを知れました。特に YES/NO のコミュニケーションの限界についてよくわかりました。ありがとうございます。

・大変勉強になりました。普段の生活の中で気付けない物や見えないものにどう近づけるか、感じる事ができるようになる方法がよりよくわかりました。ありがとうございました。

・コミュニケーションについて、随分間違った考え方をしていたな…と思い知らされました。自分中心であったな…と。相手の事を知っているようで何も分かっていないことに気づけました。相手をよく知り、関わっていく事が大事です。今後とも、よろしく願い致します。

・相手の方が何を欲しているのかを尋ねる時の聞き方について、誘導的になっていないかと考える事がありましたので、言語理解ができる方なら YES/NO で聞くのではなく、「あ、か、さ、た、な～」で聞けばよいのだと知ることができた点が、すぐに実践できそうだと

思いました。（文字板がなくてもよい）新しい事を取り入れながら、楽しく取り組みたいと思います。本日はありがとうございました。

・支援する側の思い込みで、解釈をしている事が多いと感じます。演習では、相手の希望を引き出す難しさを体感しました。変化を楽しみ、変化に気づけるようにいろいろなアイディアを持って、関わっていきたいと思います。

・先日の ZOOM でのセミナーも受講させていただきましたが、より近くでお話を聞く事ができ実際にコミュニケーションをとることで理解することの困難さを実感することができ、大変勉強になりました。もっともっと、利用者さんの思いを正しく理解できるよう今後ともご指導いただきたいと思います。ありがとうございました。

・はじめに、トランポリンをしているビデオを見て見る人によって様々なとらえ方があり、本人が本当はやりたかったのかなど見極めるのはとても難しいと感じました。決めつけず、いろいろなパターンを試すことは大事だと思いました。アレクサは、自分が知ってるよりまだまだいろいろな機能がある事を知りました。言葉が、不明瞭な人でも組み合わせで音声を発する機能もある事を知り、嬉しく思いました。最新機器で様々なコミュニケーションがとれる事をもっと学びたいと思います。今日は、興味深いお話をありがとうございました。

・便利なツールがたくさんあり、上手に使用していく事でハンデのある人やその家族の生活の質が向上していけるという事がよく分かりました。その使い方を学び、もっとコミュニケーションを楽しみたいと思いました。

別添資料 3-2

2020年8月8日（土）実施

・本日は、貴重なご講演をありがとうございました。私は、重度障害を持っており、現在在宅でデザインの仕事をしています。自宅で1人の時間が多いためアレクサを毎日使用しています。今後、ひとり暮らしを目標にしていますが、ひとりですることが少ないため現在は自分に合った機器を探している段階です。その為、いろいろとご相談させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

・短時間しか関わらない部署に居るため、保護者の方の意見が参考になりました。また、どのような視点で考えていけばいいのかのヒントを頂きました。
『自由な発想で楽しみながらやっていく。』という姿勢を大事にしながらいろいろな事に取り組もうと思いました。

・ASDのある生徒とのコミュニケーションを見直すきっかけになりました。

・客観的に見ることの重要性を改めて学んだ。

・安定の中ではコミュニケーションは生じないというのが心に響きました。自分の視点を変えるきっかけになる興味深いセミナーでした。

・保護者の質問に対しての答えが大変勉強になりました。

・質問コーナーなど、具体的でとても参考になったと思いました。初めて ZOOM 使いましたが、とてもスムーズで良かったと思います。ただ、やはりアプリの紹介などは遠隔では少し無理がるとも思いました。ありがとうございました。

・現場で実践してみたいです。また参加したいです。今日はありがとうございました。

・支援に関わっているお子さんに置き換えて、考えること、やってみたいことへの気づきがありました。ありがとうございました。

・コミュニケーションの本質について考えさせられました。Zoom を使った参加者・先生方・保護者の方々の相互交流の可能性も強く感じました。丁寧な進行・説明も嬉しかったです。ありがとうございました。

・現場の先生からお話が聞けたのが良かったです。

・子どもたちの表出を思い込みで判断していないか、など耳の痛い話もあり、初心にかえり謙虚な気持ちで子どもたちの前に立とうと思えた研修会でした。子どもたちの想いを受けとるために開発中の ICT 機器にも大変興味がありますので、今後の報告も楽しみにしております。今日はありがとうございました。

・本日は、ありがとうございました。先日、視線入力等についての研修を受講しました。本日のケースの中には視線入力でスムーズなコミュニケーションができそうなお子さんも見られましたので、そちらを活用されてみてはいかがでしょうか？ 同じ課題、悩みを抱える方々と情報共有をしつつ学びを深めて実践していきたいと思いました。

・多くの人が共有する状況で個人的なことはお話しにくかったかもしれませんが、オンラインを通じての相談会、拝聴する側にとっても貴重な学びになりました。こうした会が複数回開催されていくことを期待しております。どうもありがとうございました。

・日々の関わりを反省しながらお話聞かせてもらいました。最期質問に対する中邑先生のお答え（家の壁を使って…）目からウロコでした。

・具体的な内容で大変勉強になりました。重度の子のコミュニケーションは、本当に難しいと思うことも多いのですが、観察を大切にしたらこちらも楽しんでいきたいと思えます。最近視線入力の可能性をとっても感じています。見て楽しむことができる子どもたちに、気持ちを表出できるようになってほしいと思っており、その方法を色々考えているところです。視線入力の話題も取り上げて頂きたいです。今日はありがとうございました。

・とても有意義な学びの時間をいただきました。自身の実践への警鐘とともに、後押しとなることもありました。また、テクノロジーの活用と、それに先立つ観察、仮説をもとにした検証など、同僚とも共有したいことを再確認できました。オンラインでしたが、とても近いところでお話を聞いているような気持ちでした。質疑応答も良かったです。CO+高松の皆さま、中邑先生、赤松さま、良い機会をありがとうございました。

・子ども達とコミュニケーションを始める前に、子どもの気持ちをしっかりと受け止める、受け入れるということが大切であることを再確認することができました。相手の気持ちを分かりたいといくこちらの思いが大きければ大きいほど、こちらの思いを押し付けてしまう（勝手すぎる解釈をしてしまう）ことにつながるのかもしれませんが、これからは子ども達と楽しくコミュニケーションをするためにも、その子どもの発達段階を適切に捉えて、最も適切なかかわりかたをしていくことは、他の支援を考えていくときと同様であることも分かりました。また、実際のケースについての相談会を公開していただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。次回開催も（長野県から）楽しみにしています。

す。

・コミュニケーション…本当に奥深いなと感じます。中邑先生のお話や保護者の方からの相談に対する先生方のお答えもとても勉強になりました。担任している子どもたちもお喋りできる子、難しい子がいますが、私の子たちへ伝の伝え方も難しいなと感じることが多々あります。悩み、反省しながらの毎日ですが、今日参加させていただいて、私なりに心が動いたところを、子どもたちと過ごすなかで活かしていきたいなと思います。参加させていただいてありがとうございました。また勉強させて下さい🙏

・子どもの意思をとらえ違えていること、多々あると思います。意思表示できる術を探り、気持ちを捉えようと改めて努めようと思いました。

・開始前には zoom にうまく繋がらず、半ば受講を諦めかけていましたが、お教えいただき、繋がれたことで、素敵な時間を過ごすことができました。最後に中邑先生が zoom だからこそ、全国の方と繋がれるみたいなおもしろいこととおっしゃられていましたが、いいね👍と思いました。地元の高松でこのような企画を計画し、その前に co+のような活動をご提案いただいている英さんにも感謝いたします。今までの自分はイマイチでしたが、勉強しなきゃ、感性をもっと高めなければと思えた時間でした。中邑先生を始め、以前から関わりをもたせていただいていた谷口先生、佐野先生、近藤先生にも感謝です。ありがとうございました。これからは様々な広がり展開されそうですね。今後ともよろしく願いいたします。

・子どもの意思をとらえ違えていること、多々あると思います。意思表示できる術を探り、気持ちを捉えようと改めて努めようと思いました。

・子どもたちの自己決定を尊重する考え方はとても大切だと分かりました。私はまだ学生で来年講師として勤務することになります。来月、特別支援学校の教育実習に行きます。そこでは日常の中にどれだけ子どもたちの自己決定の場があるのか、こちらが行動の自由を奪っていないのかを考えながら指導していくことを大切にしたいと感じました。日頃から選択肢がないと依存的になることや行動が自動化し、何も考えなくなってしまう恐れがあることを知りました。エンパワメントの考え方がより大切になると感じ、常にこのことを念頭に置き子どもたちと関わっていきたいと思います。

・私は、まだ重度の障害のある子どもや、コミュニケーションをとることができない子どもとの関わりを持ったことがありません。しかし、お話の中で飲み物一つにしてもお茶ではなく炭酸や青汁にして、顔の近くに近づけたらどんな反応をするのか、匂いが違うとどんな反応をしどんな思いを表出するのか、といったコミュニケーションをとることが大事

だと感じました。わずかな表情の変化や動かせる体の反応からくみ取れるものがあり、またそれは子どもたちの意志であり選択であるのだなと感じました。そういった匂いや色の変化などもコミュニケーションの一つであることが分かり、コミュニケーションは話す、聞くだけではないということを改めて感じ、その重要性を学びました。そこには子どもにあった適切な刺激の提示とそれに対する反応をよく観察し、その反応に対して適切に反応することができるということが分かりました。

・観察一つにしても、寝る前にホットミルクを飲んだ、いつもよりお風呂が長かった、マッサージを受けてなど前後関係を明らかに、それぞれの気持ちやそれがどう影響されたかを長期的に観察することが出来ると分かりました。長期的な観察により、もしかしたら～と関係しているのかも、と発見することが出来るかもしれないと思いました。

・子どもたちの自己決定・自己選択の方法は限りなくあり、一人一人に合った様々なコミュニケーションの方法があるということが分かりました。安定の中でコミュニケーションは生じないとおっしゃっていましたが、飲み物の例のように子どもに選択肢を与え、コミュニケーションである選択できる喜びや楽しさを感じられる工夫をしていきたいと思えます。障害の有無関係なしに何をすることも権利を持っており何かをやりたいという思いや欲求は一緒であるため、こちらの押し付けにならないようにコミュニケーションをしていきたいと思えます。

・今回、大学の先生の Facebook の共有から知り、参加をさせていただきました。今後も学びを広げていきたいと考えているため、積極的に参加させていただきたいと思えます。本日は貴重なお話を誠にありがとうございました。

・支援者の実体験をもとにしたお話を聞くことができ大変参考になりました。このご時世、web でこのような貴重なお話が聞けることは大変ありがたいと思えます。

・中邑先生、お久しぶりです。とても楽しい 1 時間半でした。しばらく、しゃべる子ばかり相手にしてきたので、意志を伝えることが難しい子を久しぶりに担任して、大混乱して、地下に潜ってしまったこともありました。今、五感で子どもをとらえるその感覚を徐々に取り戻しているところです。とても自分が今求めている話題で、エントリーしました。今年コロナの休校、分散登校で、アセスメントがきっちりできたので、とてもよいスタートが切れています。

・話を聞きながら、今考えている方向性は間違いではないことを確認することができました。医ケアの子の意思の確認について、最先端の研究もされているようで素晴らしい。ここはまたセミナーで具体的に詳しく聞いてみたいです。

・最後の質問。Q2。物事が分かり始めると、イヤが出る。ステップ上がってうれしいのだけど、この時期、結構、面倒くさいですね。家族が。面倒くさくなるから要らぬこと教えてくれるなどという家庭も、昔は、いました。対面介入でないと、認知の段階がどこなのか見極められないので難しいですが、年少なら、どんどん表象機能上げていくのが得策ですね。高橋圭三先生の好きな太田ステージだと、ステージⅢが一番大変。ステージⅣまでいくと、本人も支援者も楽になります。こんな認知発達段階だから、こんな行動が出る時期とわかれば、周囲の気持ちが楽になるものです。そして、焦らず休まず粘り強く向かい合う。薬みたいにすぐに効かないことも頭に置いて。それから、行動観察して、機能をアセスメントする。注目なのか、逃避なのか、物を得ることなのか、行動の結果得られているその先を客観的に分析すると、セッティング事象を変える遊びにつながっていきます。今回は、県内最重度で通学している医ケアの生徒の担任も誘いたいと思います。校内で、勉強したいと思っている若手も誘いますね。ありがとうございました。次回も楽しみにしています。

・コミュニケーションの本質とは何かを考えさせられました。

・大変興味深いお話でした。

・ライブ感があってよかった。

・とても勉強になりました。

・実際のお困り事に対して回答を聞いて実践的な学びになりました。ありがとうございました。

・役に立つ内容でわかりやすかったです。

・具体的でとてもわかりやすいセミナーでした。ありがとうございました。

あっという間の1時間30分でした。また参加したいです。次は支援者の意見や質問ももらえたら嬉しいです。

・コミュニケーションは楽しいはず。ぶっ飛んだ発想で、困り事を笑い飛ばして解決していきたいと思いました！知恵とアイデアとワクワクで乗り越えられそうです！勇気が出ました。またよろしく願います！

・とても興味深い内容でした。もっともっと知りたいことがあります。（具体例など）そのような会をたくさん作っていただき、参加させていただきたいと思います。その際に、

今回参加した者にメールでの案内等がありましたら、大変嬉しく思います。お手数とは思いますが、どうぞよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

障害の有無にかかわらず、人と人のコミュニケーションを考える上で重要な視点を教わることができました。ありがとうございました。

・真面目になりすぎずに楽しく、を大切に、日々の子どものコミュニケーションを味わっていきたいです。言葉の表出のないお子さんに戸惑いを覚えていましたが、もっと観察してみます。

・とても素晴らしい取り組みが始まっていると、うらやましく思いました。これから開設する施設で、取り入れていきたいと思います。今後のセミナーにも参加していきたいです。

・中邑先生のご講義を受けさせていただくことを楽しみにしておりました。（オンライン上というのが残念でしたが・・・）大変勉強になりました、ありがとうございました。より実践的な部分についても今後、学んでいきたいと思います。機器類について、展示ルームを設けてあるということでしたので、今後そちらも是非伺って（オンライン上での開催を期待します）勉強していきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

・講義、公開相談、Q&Aなど、とても充実した内容で勉強になりました。もう少し時間があると良いとも思いましたが、様々な状況を踏まえるとちょうど良かったのかもしれない。今後も機会がありましたらまた参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

・色々考えると、どうしても真面目な発想になってしまいがちですが、コミュニケーションをとることは面白いことということをお忘れずに、子どもたちと楽しんでいけたらと思います。今日はどうもありがとうございました。

・相談者の方の具体的な相談内容と先生方の助言などを公開で聞くことができ、とても良かったです。「CO+高松」はこれからも注目していきたいです。今日はありがとうございました。

・とても勉強になる研修でした。意思決定とコミュニケーションの違い、「トイレに行く」を伝えるには段階に分けるなど、今日知ったことをもとに日々の支援をしていきたいと思えます。ウェブ研修は初めてでしたが、今後もウェブでの研修もしていただけると嬉しいです。

・重度重複障害のお子さんの施設に勤めています。かなり昔に中邑先生のお話をお聞きして以来、コミュニケーションを大切にしてきたつもりではありますが、自分の今の実践がどうなのか、当時よりいろいろな機器も開発された中で、新しい手段は何かあるのか学びたく参加させていただきました。観察すること、仮説を立てて検証すること、適切に機器を使うことを改めて実践していきたいと思います。そして、お子さんに真摯に向かい合いコミュニケーションを楽しむことの大切さを再認識させていただきました。またの学びの機会を心待ちにしております。ありがとうございました。

・主に保健センターで幼児の発達相談をしている心理職なので、普段重度のお子さんと接する機会はあまり多くありませんが、発達が遅れている、または ASD 疑いの幼児とのコミュニケーションにも大変参考になりました。普段保護者にお伝えしていることが間違いでなかったと、再認識できました。たまに保育所に入っている肢体不自由のお子さんの相談に乗ることがありますが、コミュニケーションボードや VOCA などのオルタネーティブなコミュニケーション手段を紹介しても、そもそも保護者や通っている ST からそのような話が全く無いこともあり、受け入れていただきづらい経験もしました。質問にあった知的障害がない肢体不自由の方のなど、先生方がおっしゃったような手段を早く取り入れてあげると良いのと思いました。どうもありがとうございました。

・現場を振り返りながら、リアルタイムで課題に感じていることへの参考になることがたくさんありました。また疑問に思うことや試してみたいことがあれば、Co+に協力を依頼できればと思います。ありがとうございました。

・大変興味深いテーマでした。個人情報に影響のない範囲で質問・回答とともに共有していただけたら有難く思います。あるいは話に上がっていたような茶話会的な場をどんどん設定していただきたいです。私も子育て中ですが、障害があってもなくても子育ての悩ましいことを共有して、自分以外の視点を持つことは本当に重要だと感じています。真面目に考えすぎず、楽しく！とても良い言葉ですね。希望を感じる内容にもっと ICT について深く学んでみたいと思いました。東大には入れませんが・・・

・yes/no コミュニケーションの弊害など、大事なことを再認識できました。本日はありがとうございました。また、当方からの質問を取り上げていただき、中邑先生をはじめ実践豊富な先生方のご意見を直接お聞かせいただけたことに感謝いたします。かかわる生徒さんたちの表出を観ることができても、その先どのように解釈し、仮説を立てて接していくか、と言うところも難しいなあと感じます。実践を進めていきたいと思います。運営等お疲れ様でした。次回もまた参加したいです。

・ありがとうございました。たくさん経験を積んで、その状況に応じた声かけや対応が必

要だと思いました。1人で悩まずいろいろな人の意見や知識を教えてもらい早めに対応すること。今日は先生方が積み重ねてきた経験談を聞くことが出来て良かったです。参考にさせていただきます。

・愛知県で加配保育士をしています。自己決定支援の大切さがとてもわかりやすかったです。自発の微弱なお子さんに対して、勝手な解釈をせずに、本人の意思の表出とそれを尊重することこそが支援のスタートラインですね。質問の後半で、お子さんの行動問題？パニック？などに関して、行動を観察したり、記録をつけたり、カームダウンエリアを準備することも大切だと思いますが、まず、本人にわかりやすいスケジュールが表示されていないのではないかと思います。

・立場としては、支援員ではなく相談支援専門員ですが、担当させていただいている方々の中には、コミュニケーションが困難な方がおいでの中で、意思決定をして頂く方法がわからず、ご家族にそれを求めている現状があります。お付き合いの頻度も毎日というわけにはいかず、モヤモヤしながら関わらせていただいているのですが、どこかでご家族と一緒に意思がうまく汲み取れる方法を探して行けたらいいなあ、と思わされた研修でした。また、色々なことを試してみたいと思います。ありがとうございました。

・医療センターで言語聴覚士をしているものです。普段の自分の関わりを思い浮かべながらセミナーを受講していました。日々、利用者の方の気持ちを拾えきれないもどかしさを感じています。様々なテクノロジーを上手く活用することも課題ですが、それを他の職員と共有することも頑張る必要があると思いました。

・どう伝えるか、相手が何を訴えているか、またその前に相手の理解レベルに大きな違いがあることなど気づきが多かったです。

・今日は貴重な講座を無料でオンラインで公開していただき、本当にありがとうございました。

・私は現在は放デイや児発をアドバイザー的に回って先生方や保護者の方のご相談をお聞きする仕事をしている言語聴覚士です。私が仕事を始めた15年前、周りの病院などでは言語指導を受けてもらえない重度のお子さんたちを見ながら、たくさん観察をして、お子さんの小さな反応からその子の思いを周りの方々に理解してもらえないか、どうにかこの子たちにも自己決定の機会を持たないものかと奮闘していたことを今日のセミナーを受講して思い出しました。先生方のアドバイスが、私が思っていたことと共通する部分が多く、支援に対する考え方の背中を押していただけたような気持ちです。私の中にまだ理解が深めれていないテクノロジーの部分と、彼らへの支援がリンクできたらどんな素晴らしいものになるだろうと希望の光を感じました。これからのCO+高松の活動や発信を楽しみにし

ています。またこう言った機会があれば色々と学ばせていただきたいと思います。本当にありがとうございました

・本日はありがとうございました！たくさん情報やアイテムがある中、子に合ったコミュニケーションの最適な手立ては何かをどこに相談すればトータルで考えられるのか、悩んでいます。今日はヒントをいただき、よい機会となりました。

・コミュニケーションを続ける上で大切にしていけることが改めてわかりました。諦めずに楽しみながら色々挑戦していきたいと思います。

・無料だったとは思えない内容で大満足でした。ありがとうございました。

・とてもわかりやすい内容で参考になりました。質問にも答えて頂きありがとうございました。早速、出来ることから取り入れてこどもとのコミュニケーションをもっと楽しみたいと思います。

・ありがとうございました。重い障害があっても、普通の子供の子育てと同じでいい所がたくさんあると、日頃から思いながら育てています。今日のお話を聞いて、あながち間違っていないなと感じました。障害があるからと言って、子供の成長発達、心の成長を身構えすぎたり、「できるはずがない」「わかっているわけがない」と決めつけられてきましたが、娘は進化を続けています。今まで、娘と二人三脚で取り組んできたエピソードと似たようなお話がいくつか出てきて、それでいいんだよと言っただけの気がしました。

・今は我が子が大人になり、いろいろ悩みも大きくなりました。若い時にいろいろ勉強したりアドバイスをもらったことを思い出すきっかけになりました。重度で難しいですが、今は家で一緒にいますので、本人とのやり取りを楽しみたいという気持ちになりました。リモートでの参加など初めてドキドキでしたが、最後まで見られてよかったです。

・今日は貴重なお話をありがとうございました。小学5年生の重度肢体、知的の重複障害の娘がいる母です。少しの体の動きも発見できるもので、効果的な部分を探してみたいなと思いました。また、寝ていると思っても実は天井を何時間も見ているだけだった・・・という記憶が何度もあります。自分で操作や、アレクサに話しかけての指示は難しいと思うので、起きている時間に勝手に遊べるおもちゃなどのお話を伺ってワクワクしました。テクノロジーの進化によって、娘が生き生きと生活できるようになると親としてはとても嬉しいです。高松には素晴らしい先生方が沢山いらっしゃるいいですね。ぜひ東京にも来ていただきたいです。ありがとうございました。

・中邑先生をはじめ、先生方、スタッフのみなさまありがとうございました。私は東京から参加して視聴させていただきましたが、こういうセミナーはぜひこれからも継続していただきたいと思います。たくさん学びがあり、ケース相談もでき、その場で回答もしていただける、とてもありがたく感じています。自分の質問出なくても、参考になるお話もありました。ビーフシチューそのものがなんだかわからない人、学校に耳栓をさせていくお話、家の壁や天井をコミュニケーションボードに使っていくお話など、衝撃的でした！
たくさん学びや気づきをいただきまして、ありがとうございました。また次回も楽しみにしております。（次はうちも相談させていただきたいと思いました）

・過去何度かセミナーに参加させていただいております。ありがとうございます。家族と本人で、楽しみつつ、コミュニケーションを育てていきたいと思っています。

・1才2ヶ月（修正11ヶ月）の重度重複障害の息子がいます。このままでは、機械のようにきまりきったお世話を続けるだけになってしまうと思い、セミナーに参加しました。試せる事から試していきたいと思っています。色々なアプリなどを実際に試せる場があれば是非参加したいと思っています。

・大変勉強になりありがとうございました。自分の子供のことと照らし合わせながら、反省しつつ拝聴させていただきました。改めてコミュニケーションの取り方を見直していきたいと思いました。オンラインセミナー今後も参加していきたいです。よろしく願います。

・高2の肢体不自由児の母です。特別支援学校に通っています。卒業に向けてまさに意思疎通の方法を学校の先生方と一緒に探しているところで、お話を聴いて頭の中が整理できましたし、テクノロジーを使えば今後もたくさんの可能性があることがわかり希望が持てました。兵庫なので普通なら絶対に参加できない講習会ですが、このような機会をいただき感謝しています。今後もこのような企画があれば参加させていただきたいです。本日はありがとうございました。

・貴重なセミナーをありがとうございました。先生方との相談通じてお母さまの考えが整理させていく様子が手に取るようにわかりました。

・本日は参加させていただき、ありがとうございました。子供がどのレベルで分かっているのかを理解してコミュニケーションを取ることが大事だと分かりました。とても勉強になりました。ありがとうございました。

・今日のセミナーは、ざっくりとした内容だったのですが、先生方や保護者、支援員の

方々の存在を感じる事ができて、それだけでも良かったです。改めてコロナ渦で孤立感があったんだなぁと気付かされました。知らないうちに孤立感で鬱々とするところでした。遊び心も忘れないように、じっくりと子供と向き合おうと感じました。機会があれば、次はたくさんの方の具体例を聞きたいです。色々な例から我が子に使える具体的なヒントをもらえそうだと感じました。

・うちの子は小学校 1 年の支援学校に通ってます。肢体不自由児でしたが、今少し歩けるようになり、知的は要重度で理解もあまりできず、未だ色々な検査をしても原因がわかっていません。私自身、心が折れた事もあり、夜一人で思い詰めて泣く事もあります。正解もなく、試行錯誤していますが、今日話が聞けて、やっぱり気長にテーマを決め、実際にやってみて、その子その子の正解をみつけるしかないのかな?!と感じました。また情報提供も非常に大事だと思ってます。色々な施設に通って色々な障害のあるママさん達とも出会い、助けてもらいながら、助け合い、これからも楽しく、ポジティブに行こうと思いました。本日は本当に勉強になりました。ありがとうございました。

・知的、身体機能の障害はなく、不安が強いためにコミュニケーションに困り感がある子どもの母です。コミュニケーションの問題について、重度重複障害のコミュニケーションの問題と共通することばかりで、とてもよい学びができました。問題行動のようなパニックは起こしませんが、動けなくなるのは過剰な刺激があるときだったり、どうしてもいいと答えるのはそれを体験したことがなく選びようがなかったり、納得することがたくさんありました。これからも、学ばせていただけるとありがたいです。ありがとうございました。

・こんな言い方は失礼かもしれませんが、とても楽しいセミナーでした。ながら視聴ではなく、がつつり視聴しました！中邑先生の講義では、「選択とコミュニケーションは違う」というところが印象に残りました。本当はコーラが飲みたかったのに、、、という諦めが続くと、コミュニケーションの意欲はどんどん低下していきます。外から見ると一見微笑ましいものは本当のコミュニケーションなのか？という視点が持てました。Q&A もとても良かったです。最後の NO ばかり言うという時期は、軽度知的の自閉症の息子も遅れてやってきました。まさに遅れてきたイヤイヤ期。その時期、自傷や他害も良く出ましたが、ダメなことはダメと伝える時に、同時に良いことはこれだよと正解も伝え、さらにダメな理由も必ずセットで伝えました。当時、発語は無く文字も読めなかったので全て絵に文字を添える形で伝えましたが、根気よく伝える事で、ダメなことには理由あることも理解していき、3 年くらいした今では発語も出て、何でダメなの？と、パニックになる前に支援者に理由を問い、気持ちをさめていくようになってきました。また次の機会も視聴したいです。ありがとうございました。

・ありがとうございました。とても勉強になりました。島根大学伊藤史人先生のポランの

広場の 2020 年 4 月 24 日実績報告書「子どもの思いを伝えたい～個別の教育支援計画を通して教師と家庭の二人三脚の歩み～」を掲載して頂きました大村祥太郎の母です。その際、香川県立高松養護学校の「支援のヒント」を引用させて頂きました。魔法の言葉や他の文献においても、高松養護学校の先生方の取り組みに感銘を受けてます。支援教育に携わる方たちにも、これからもっと広がることを心から願っております。今日は思わず、高松養護学校の先生方も拝見できて嬉しかったです。

・地方に住む私たちにはなかなかリアルでは経験できない、貴重な中邑先生のセミナーでした。こどもとのやりとりをもう一度丁寧に見直そうと思います。ありがとうございます。ぜひ、オンラインでの継続開催を今後もお願いします。最重度の娘の意思を読み取ることができるようになりたいとずっとおもっています。観察、記録の重要性はわかっていますが、日常生活では難しくできていません。シンプルに必要なことを記録できるようなアプリがあるとのこと、とても興味があります。今後またご紹介いただきたいです。やりとりを楽しむことが一番のコミュニケーションだと、中邑先生のお話から感じました。ありがとうございます。

・入所施設を利用している」45歳の重度知的障害のあるダウン症&ASDの息子がいます。意思疎通の難しさから自傷行為や奇声、不眠などが強くみられます。環境の整備（構造化）や実物提示によるスケジュール、ポディーランゲージを使ったコミュニケーションを試行錯誤でやってみて上手くいったことを施設側にもお伝えし最近は落ち着いてきています。入所施設は少ない職員で大勢の人を支援しているので、なかなか一人ひとりに適した支援まで手が回らない現状です。1対1でかかわれる家庭という環境をいかして本人とのコミュニケーションの方策を探っていきたいと思って受講しました。今日はよい勉強になりました。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

・コミュニケーションのやり方の違う相手とどうやってコミュニケーションするか。自分の心の持ち方と本人の気持ちを邪魔していないかをいつも思っています。本人は、自閉症スペクトラムで、書いてくれたら分かる、書いて欲しいと 伝えてくれます。時々、私が自分の楽な方のやり方になってしまうので、本人の気持ちを忘れないように 時々 色々な人の話を聞こうと思ってセミナーに参加しました。煩くしてたと反省したり 環境の見直しの後押しになります。住居のある地域以外の方のお話を気軽に聞ける様になったのはとても面白い事だなど 社会の変化も楽しんでます。ありがとうございます。

・神奈川県の高重複障害の13歳の男児の母です。息子とのコミュニケーションについて色々試していたところだったので今日はお話を聞きたく参加させていただきました。昨年インフル脳炎になり視線は合わなくなり、できていた事も全くできない、反応、笑顔も消えてしまいましたが、この1年かけて状態も復活し、少し前進した部分もあり、iPad

やスイッチを使い始め本人と私はもちろん、家族が息子とコミュニケーションを取る機会が増えました。いやなことには顔を背けたり、最近は手で払い除けたり、嬉しい時にはニコニコしたりなど反応も沢山出てきて人や物をよく見るできるようになりました。しかし、選択をさせるということはしてきていなかったなどお話を聞きながら思い、反省することも多々ありました。しかし、これを機に選択する機会を沢山作ってあげたいと思いました。息子はアーアーと大声を最近出すことが続いていて、昼間も夜中もなのでなんでもあんなに大きな声を出すのだろうとイライラしてしまうことも多いのですが、名前を呼んだり話しかけると止まるので先生の話聞いて、声を出すことを楽しんでいるのかな？と想着て、少し気持ちも楽になりました。これまで日々に追われコミュニケーションは撮れないものだと思っていた部分があったため、まだまだ経験や体験が少なく、様々なものに対する認識もできてないので、出だしが遅くなってしまいましたが、これから色々工夫して楽しく親子でコミュニケーションを取れるようにしていきたいと思いました。またセミナーに参加させていただきたいと思うような素敵なセミナーでした。本当にありがとうございました！！

・KIF11 欠失という染色体異常で生まれてきた 5 歳の男子の母です。今日は我が子のためというよりは、周りにいる重度心身障害のお友達とコミュニケーションを取りやすくする方法を学びに受講させて頂きました。モニタリングとその分析の大切さを知り、テクノロジーを駆使できる世の便利さに驚きました。また、たくさんのハートの熱い先生方がいらっしゃることに感動しました。飲み物を選ばせているかのお話では、思わず私自身がドキーっとしました。普段から本人に聞かずにこちらの都合で飲み物を与えることが多いなと気がつけて頂きました。あらゆる生活のシーンで、スムーズに進むよう親の都合で勝手に、本人の意思や選択の機会を奪ってしまっているなど感じたので、今日から手間を少し増やして環境を変えてあげたいなど思っています。本日はありがとうございました。オンラインでの講演、また参加したいです。

・重度心身障害者の 22 歳息子です。抗てんかん薬の影響だと思っているのですが、表情が豊かな時間とボーっとしているか眠くなる時間があります。OT の先生方にコミュニケーションがどのくらいできるかを研修という形でみてもらいましたが、寝る、ボーっとしている時間帯でいろんな表情を見てもらえず時間を無駄にしまいました。学校へ行っている時も担任の先生とのやりとりの中でもデイサービスの職員とのやりとりでもあったので本人の調子のいい時のコミュニケーションができればと思いました。

・調子のいい時って決まってない

・私がこうだと思っていることを決めて支援者に伝えることでいいのか分からない。

・解釈が違うというところで

笑うということは、本人にとっては気持ちはいいのかと思ったら、笑いながら痛みを訴えていたこともありました。その違いは伝えるのが難しい。息子にはいろんな課題があっ

コミュニケーションは後回しになってることもありました。セミナーの中で試してみようと思うことも見つけられました。てんかんの記録ができるテクノロジーも試してみたいです。またこのような機会があると嬉しいです。ありがとうございました。

・本日は中邑先生、英さん(いつもながら笑顔が最高)、そして先生方、貴重な講演を聞かせていただきまして誠にありがとうございました。諏訪さんからお声かけていただき、本来は高松のみのところ全国の方にとのことだったので、お友達にも声がけさせていただきました。中邑先生のお話は細部に渡って子供たち、親御さんへの優しさがヒシヒシと伝わり感謝でいっぱいです。長男(特別支援学校小 2)は胎児の段階でもろもろ判り、緊急で出産し NICU で治療中に脳出血を起こし結果、脳性麻痺となりました。(ダウン症、脳性麻痺、口唇口蓋裂、難治性てんかん、筋緊張)成長しても赤ちゃんへの対応と同じようにしがちだった私が、徐々に多くの方々との関わりの中で学びや気づき、それと本人の成長によって「赤ちゃんだなんてとんでもない!」とかなりガラッと息子との関わり方がここ数年で変わったように思います。「意思も言葉も持っている」と。そして、選択することは喜びに成長に豊かな人生へと繋がる。これからも彼に様々なことをできる限り選択させてあげたい!

問題は母が根気も丁寧さも無いところでした、いつも申し訳なく思うばかりです。。。(汗)日常の中で自然と息子と模索していけたらなあと思っております。

中邑先生がお話されていたなかで、いま作成されているアプリケーションのお話。とても期待するところです。やはりどうしてもわからない、不安なことって日常、母でも家族でもわからないことが多々あります。裏付けできるようなものが出来たら、家族だけでなく、支援くださる方々とも共有できることで本人がより快適に暮らせることに繋がるのではと思います。甘弘さんのご質問にあったように本人の望みや思いなどの声をキャッチ出来るよう、それが家族以外へも伝わるようになればというか、なってほしいです。

いつか親は先に亡くなります。他者へ息子が思いを伝えられることが出来たら、安心して死ねます(笑)これは仲間のママ達と共感多い事柄の一つです。また全国的に開催される際は参加させていただきたく思います!皆様方の温かさに終始胸がいっぱいになりました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日は本当にありがとうございました!

・重度重複障害のある 25 歳男の保護者です。養護学校卒業後、通所施設に通っています。コミュニケーションをとって本人の意思を汲み取れているのか、本人の気持ちに寄り添えているのか、再考する良い機会となりました。どこまで理解できているのかを判断するのはむづかしいですが、幼いころより聞き分けの良い子だとおもっていましたので、母の都合のよいように解釈をしていたのかもしれないと、自問自答しておりますので、本日帰宅したらじっくり向き合ってみます。

・質問者のかたで、先生が大きな声で対応してくださるのが・・・。これはとても共感し

ました。本人の意思表示が明確でない＝聞こえていない ではないと思います。やたやめたら、大きな声で寄ってくる先生（支援者）が多いです。自己アピールはいい（遠慮します）、そういうコミュニケーションの好きな人もいますが、嫌いな人もいます。（当方の本人は嫌いどころか恐怖を感じるようです）。

（Yes/No）は、在学中よりできていましたが、卒業後、多くの支援者に恵まれて本人も進化し、よりよく理解（初対面の方にも）してもらえるようになりました。成長はゆっくりですが、長いスパンで観察をすると、“できること”は増えていきますし内容も進化しています（ある日突然新しいことをやってのけるので「貯めの時間」と私は呼んでいます）。

・様々なツールを活用するために、支援してくださる方々と共に、一緒に生活をする家族も支援機器を使いこなせることとともに、偏りなく本人に目も心も向けて毎日を過ごしていきたいと思います。

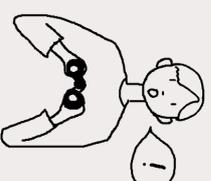
・コロナウイルス感染症の広がりにより、外出等制限される中でしたが、本日の講座とても有意義でした。ありがとうございました。会場に行かなくても、講演会(勉強会)に自宅で受講できるっていいですね。

・本日は参加させていただき、ありがとうございました。大変勉強になりました。コロナでなければオンライン開催ではなく、参加できなかったと思うので、少しだけコロナに感謝です。(もちろんコロナは早く収束してほしいですが)世の中のオンライン化が進んだことは、地方在住者(愛媛)にとってはありがたいことです。息子は現在高校1年生。保育園、小学校は地域で育ち、中学校からは片道1時間弱の肢体不自由児特別支援学校に通っています。早産による脳性麻痺で、車椅子、歩行器、杖を使用して生活しています。今年から寄宿舎生活をスタートしました。小さい頃に比べるとコミュニケーションもほぼ問題ないくらい成長してきましたが、思春期特有の難しさがあります。今の悩みは、卒業後の生活です。私たちが亡き後の生活のために、もう少し自立度をあげていければと思います。また、いろいろ勉強させていただきたいので、次回もぜひ参加させていただきたいです。本日は、ありがとうございました。

・高2の肢体不自由児の母です。特別支援学校に通っています。卒業に向けてまさに意思疎通の方法を学校の先生方と一緒に探しているところで、お話を聴いて頭の中が整理できましたし、テクノロジーを使えば今後もたくさんの可能性があることがわかり希望が持てました。兵庫なので普通なら絶対に参加できない講習会ですが、このような機会をいただき感謝しています。今後もこのような企画があれば参加させていただきたいです。本日はありがとうございました。



重い障害がある子どもとの
コミュニケーションに
悩んでいるお父さんお母さんへ



コミュニケーションの扉を
一緒に開けてみませんか？

子どもの気持ちを理解したい。

子どもと楽しくコミュニケーションをとりたい。

子どもを育てていると誰しも思うことです。

けれども、重度障害のある子どもたちは

動きが微細であったり、反応が遅くなったりと

その表出が分かりにくいことがあります。

そんな子どもたちとのコミュニケーションの糸口を

お父さん お母さんと一緒に見つけるお手伝いができたら...

そんな思いでこの冊子を制作しました。

コミュニケーションの糸口探しは

「子どもを知る」ことから始まります。

普段とは少し違った視点で「子どもを知る」と

新しい発見が生まれてくるかもしれません。

小さな発見かもしれません。

でも、小さな発見がたくさん出てくるかもしれません。

お父さん お母さんが楽しみながら

子どもたちと関わる時間が増えることを願っています。

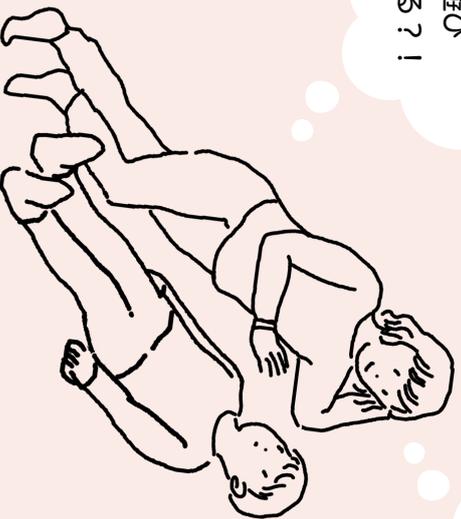


観察してみよう

子どもと一緒に寝転がってみましょう

じっと何もせずに観察していると、いつもは気づかなかった

「発見」が出てくるかもしれません



手を動かして
1人遊び
している?!

どこかを
じっと
見ている?!

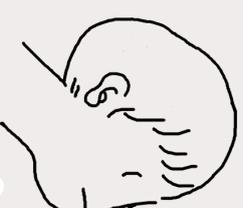
声を出して
いる!

あれ、私の方を
見ようとしている?!

意外と
ごそごそ
している?!

子どもから隠れてみよう

子どもに見えない
ところから
呼んでみよう



部屋の電気を
点けたり消したり
してみよう

香りのするものを
こっそり置いてみよう

子どもが音や光や匂いの変化に気づいたでしょうか。

子どもの中には、それを探ろうとする子もいるかもしれません。

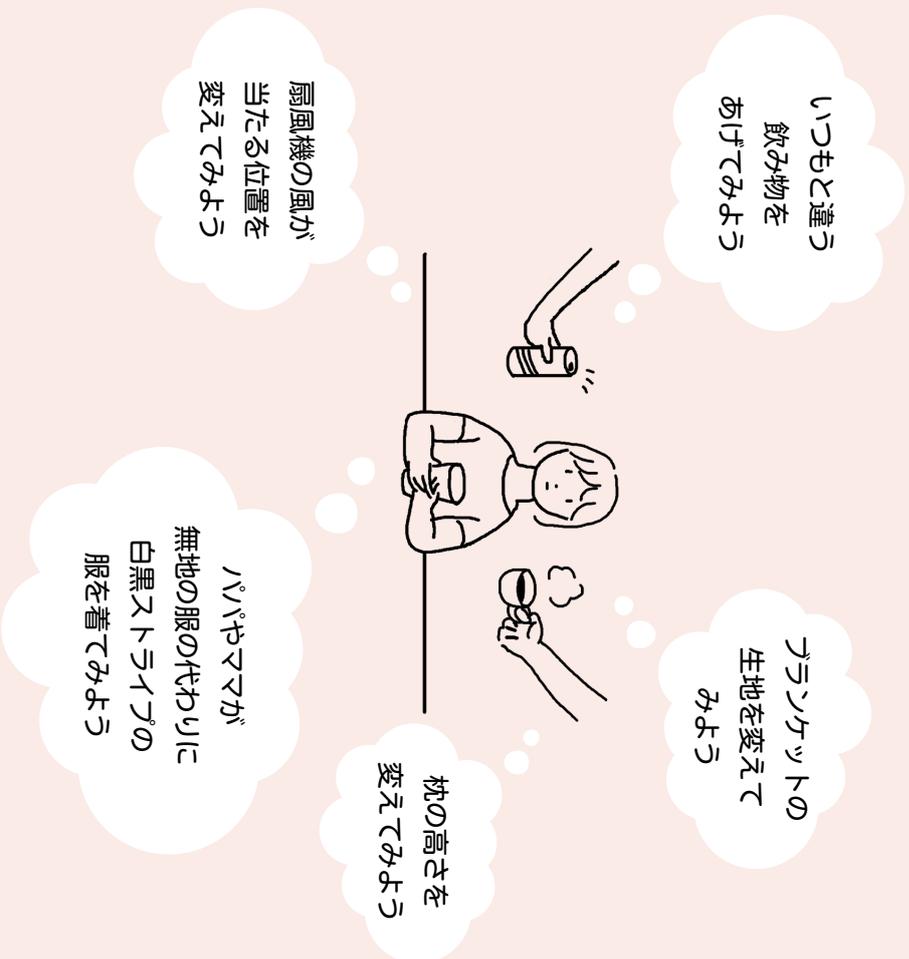
その子が気づいた刺激を手がかりに、

コミュニケーションをさらに深めていきましょう。

お母さんの声

「毎回の取り組みは、ステップが細かく分かりやすく、かつ、未も参加しやすく実践しやすいものでした。 → つづ →

いつもと 違うことをやってみよう



このように、いつもと違うことをやってみることに
子どもが意外と好みがあることに気づいたりします

取り組みを通して、次に向けた声かけややり方を考えられるようになったように思います。子どもの成長を実感すると共に保護者の成長にも繋がっていると感じています。」

大好きなものを 止めてみたら・・・？

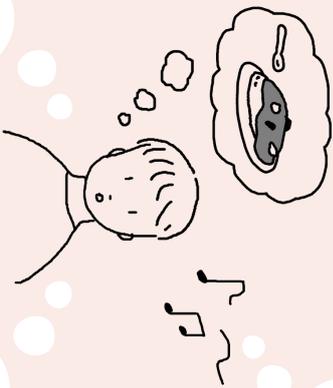


いつもやりっぱなしで、子どもが満足できる環境をつくっていると
「いやだよ」「やめてよ」という表現がなかなか出てきません。
好きなことを止めてみることによって要求行動が引き出せるかもしれません。

お母さんの声
「これまででは、子どもと2人きりの時に何をしたらいいのかわかり
ませんでした。 →つづく→

繰り返してみよう

食事の前に
いつも決まった
音楽を流したら…？



ママだけいつも
パパパタと音のする
スリッパを
履いてみたら…？

部屋のドアに鈴をつけて
誰かが出入りするたびに
音が鳴ったら…？

毎日の生活の中に、いつも同じパターンの事が入れば
それに結びつくことができ子どもが予測できるように
なっていくかもしれません。

けれども、この取り組みが子どもとのやりとりのきっかけとなり、
子どもと関わることに楽しくなりました。今では子どもが興味を持った
ものを使って、どんな関わり方をしようか考えるようになっていきます。」

子どもの今を黙って比べてみましょう
視点や仮説を持って比べてみると
その関わりがもっと楽しくなるはずですよ

子どもとの関わりが増えること
子どもの反応に適切なフイーディングができること
これらは子どもの成長に不可欠です

一般社団法人 在宅療養ネットワーク

東京大学 先端科学技術研究センター
個別最適な学び寄付研究部門

この冊子は日本財団の助成を受けて作成しました。

